

阪神地域ビジョン 2050

資料編

コ・クリエーション(共創)が育む阪神地域

Hanshin Vision 2050

AMAGASAKI NISHINOMIYA ASHIYA ITAMI TAKARAZUKA KAWANISHI SANDA INAGAWA



2022年3月

阪神新地域ビジョン検討委員会

兵庫県阪神南県民センター・兵庫県阪神北県民局

資料編

1	各種会議開催実績等	2
---	-----------------	---

2 県民の意見交換結果

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

I	自分らしいスタイルを実現できるまち	4	
II	自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち	8	
III	みんながつながる、やさしいまち	10	
IV	にぎわいのあるまち	14	

2-2	未来ミーティング（地域デザイン会議）提言	18	
-----	----------------------------	----	---

2-3	学生アンケート結果	22	
-----	-----------------	----	---

2-4	阪神地域夢会議（未来フォーラム）	24	
-----	------------------------	----	---

2-5	阪神南地域未来フォーラム	25	
-----	--------------------	----	---

2-6	阪神北地域未来フォーラム	26	
-----	--------------------	----	---

2-7	阪神南北地域ビジョン委員会意見交換会	27	
-----	--------------------------	----	---

3	データで見る阪神地域	28
---	------------------	----

1 各種会議開催実績等

■検討委員会

新地域ビジョンの策定主体。新地域ビジョン案の起草

	開催日	開催場所	内容
1	令和2年8月26日	アステ市民プラザ	現状の課題の整理
2	令和2年12月24日	西宮市市民交流センター	地域の日ざすべき方向性(柱立て)の検討
3	令和3年3月24日	宝塚商工会議所	阪神地域の将来像と基本方向の作成。骨子案の検討
4	令和3年6月14日	尼崎市総合文化センター	骨子案の確定/本体案策定に向けた意見交換
5	令和3年9月3日	宝塚市立西公民館	本体案の検討
6	令和3年11月1日	尼崎商工会議所	本体案の作成
7	令和4年1月6日	尼崎商工会議所	阪神新地域ビジョン最終案のとりまとめ

□検討委員

	氏名	役職等		氏名	役職等
1	赤澤 宏樹	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授	11	西川 欣伸 (橋本 貴宗)	尼崎市都市政策課長
2	佐久間 壮仁	阪神南地域ビジョン委員	12	堀越 陽子	西宮市政策推進課長
3	松元 一路	阪神北地域ビジョン委員	13	大上 勉 (奥村 亨央)	芦屋市政策推進課長
4	大平 和弘	兵庫県立大学自然・科学研究所講師	14	升井 幸男 (伊藤 幸男)	伊丹市政策室主幹
5	川中 大輔	龍谷大学社会学部准教授、 シチズンシップ共育企画代表	15	二口 亮平	宝塚市政策推進課長
6	近藤 清人	(株)SASI 代表取締役	16	野田 忠生 (的場 秀樹)	川西市政策創造課長
7	定藤 博子	阪南大学経済学部准教授	17	太田 歩	三田市政策課長
8	谷口 文保	神戸芸術工科大学大学院准教授	18	平井 秀明 (和泉 輝夫)	猪名川町企画政策課長
9	水野 優子	武庫川女子大学生生活環境学部准教授			
10	山中 詩子	三田市有馬富士自然学習センター コミュニケーター			

() は前任者

■語る会

地域団体等のメンバーなどで、地域の課題や将来像について車座形式で対話

(阪神南地域)

	団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1	阪神南都市型ツーリズム推進協議会	21	令和2年8月4日	尼崎市総合文化センター
2	森の会議	15	令和2年10月3日	県立尼崎の森中央緑地パークセンター
3	国際交流団体こくさいひろば芦屋	16	令和2年11月1日	芦屋市立浜風小学校コミスク室
4	西宮商工会議所	16	令和2年11月17日	ホテルヴィスキオ尼崎
5	西宮青年会議所	16	令和2年11月18日	ホテルヒューイト甲子園鳴尾
6	県内に在住・在学する大学生	19	令和2年11月28日	西宮市市民交流センター
7	西宮商工会議所	28	令和2年12月14日	西宮商工会館別館
8	尼崎経営者協会	14	令和2年12月16日	尼崎商工会議所
9	各市住民団体	12	令和3年8月18日	尼崎市総合文化センター

(阪神北地域)

	団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1	こみんか学生拠点	10	令和2年8月31日	こみんか学生拠点(三田市)
2	伊丹経済交友会	15	令和2年9月16日	伊丹シティホテル
3	三田市・区自治連合会	15	令和2年10月14日	三田市役所2号館
4	宝塚商工会議所青年部	22	令和2年10月20日	宝塚商工会議所
5	川西市商工会青年部	15	令和2年11月5日	川西市商工会館
6	三田市商工業者のみなさん	23	令和2年11月20日	三田市商工会館
7	阪神シニアカレッジ受講生	100	令和2年12月25日	阪神シニアカレッジ
8	川西市コミュニティ協議会連合会	13	令和3年6月16日	川西市役所会議室及び Zoom

9	三田耕楽クラブ構成員	8	令和3年8月25日	三田庁舎会議室及び Teams
10	阪神農業青年連絡協議会役員	9	令和3年10月26日	ひょうご都市農業支援センター

(阪神南県民センター長との意見交換会)

団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1 各市住民団体	11	令和2年9月2日	尼崎市総合文化センター

(阪神北県民局長との意見交換会)

団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1 NPO 法人市民事務局かわにし 「つながりカフェ」	8	令和2年8月20日	川西市市民活動センター
2 つながり～いな☆カフェ いながわリンク	7	令和2年9月11日	日生中央サピエ
3 いながわベース定例会	8	令和2年9月15日	猪名川町中央公民館
4 川西商店連盟	10	令和2年11月20日	アステ市民プラザ

■未来ミーティング（地域デザイン会議）

阪神地域に関わりがある20～30代の若者20名が、「保育・教育」「多様な働き方」「地域のつながり・コミュニティ」「若い世代の定住定着・呼び込み」のテーマに分かれ、将来の地域デザインを描くワークショップ

回	開催日	形式	内容	人数	開催場所
1	令和2年10月25日	全体	事務局(県)からの趣旨説明、グループ分け	16	NPO法人コミュニティ ネット事務所及び Zoom
2	令和2年11月8、15日	個別	個別ミーティング	19	
3	令和2年11月29日 第2回検討委員会	全体 中間報告	中間報告に向けた情報共有、作業 現状や将来像に関する検討の方向	17	
4	令和3年1月23、30日	個別	個別ミーティング	16	
5	令和3年3月6日 第3回検討委員会	全体 提言	提言に向けた情報共有、作業 想定されるステップと将来像	14	

■未来フォーラム

広く一般県民を集めたフォーラム。地域夢会議とし開催

「新全県ビジョン骨子案」と「新地域ビジョンの検討状況」を発表し、県民と意見交換を行う

団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1 一般県民と阪神南北地域ビジョン委員	120	令和3年8月1日	リードあしや及び Zoom
2 阪神南地域で活動している県民	10	令和3年10月28日	尼崎商工会議所
3 阪神北地域で活動している県民	10	令和3年11月13日	三田市まちづくり協働センター

■地域ビジョン委員会

ビジョン委員会第1回総会。新ビジョンの意義や検討材料を県から提示し、地域ビジョン委員と意見交換

団体・グループ名等	人数	開催日	開催場所
1 阪神北地域ビジョン委員会第1回総会	60	令和2年7月12日	宝塚市立東公民館
2 阪神南地域ビジョン委員会第1回総会	69	令和2年8月29日	尼崎商工会議所
3 (南北)地域ビジョン委員意見交換会	54	令和3年10月9日	阪神北県民局及び Zoom

■ヒアリング・アンケート

事業者・地域団体へのヒアリング及びアンケート（81件）

検討委員会等に提示する資料となり、新地域ビジョンを体系立てるキーワード抽出に繋がる

■その他

- ・学生アンケート（2011人）

阪神地域管内の高校生（主に阪神北管内の6高校の第2学年）と大学生

- ・出前講座（2校）

高校の授業・講座で、新ビジョンの意義や検討材料を提示し、学生と意見交換

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

I 自分らしいスタイルが 実現できるまち (現状と課題)

1 居住

- コロナ禍により、自然の中で遊ぶ場所や周囲との交流が少ないため、移住したいと思う人が増えたが、地域の雇用不足などの理由で、移住できない。
- 通勤・通学に時間がかかり、住んでいる地域で過ごす時間が十分でない。日本は人が住んでいるほとんどの場所に駅やスーパーがあり、公共交通機関が整備されているため、住む場所はあまり重要ではないのではないかと。
- 住めば愛着が湧いて離れたたくなる。地元にはいた時は地元が好きだった。三田市に住むと三田市に愛着が湧き、山がかわいく見える。
- 大学生の時に起業し、実家のある西宮市から知り合いが多く住んでいる三田市に移住した。活動することがおもしろい。
- 若者が田舎に憧れて移り住んでくることがあるが、実際に住んでもすぐに転出してしまう。
- 町おこし協力隊として田舎に来て、そのまま住む人と帰ってしまう人の割合は五分五分くらい。
- 田舎や都会に特化した暮らしがいいという人もいるが、多くの人は両方を手に入れたいのではないかと。

2 仕事

- 三田市は都市部（大阪、神戸）への2ウェイアクセスで都会を匂わせ、また山間部を控えた田舎的要素もあり、在宅勤務に最適な地域である。
- 「働き方改革」とよく聞かすが、十分に進んでいない気がする。
- 川西市内で仕事がしたいという思いがあっても、働く場所が少なく大阪等へ働きに出ている状態である。

3 起業家への支援

- 市街化調整区域では、企業などの立地、起業が困難である。

4 ゆとり・いきがい

- コロナ禍で移動制限がある中でもリゾートを求める。近くのホテルでちょっとした贅沢、非日常を体験できるといい。阪神地域はそれができる。
- 時代の変化のスピードが速すぎて、人口比率の多い高齢者が変化を受け入れられていない。
- 共働き世帯が増加し、自治会参加のために時間をさけない。
- テニススクールの運営はリモートで仕事をすることが難しいが、利用者がリモートの間にリフレッシュしてもらえたら嬉しい。
- 地域で看取りをする活動（ホームホスピス）に取り組み、自分らしく生きていけるまちづくり、つながりづくりに携わっている。看取ることだけではなく、今やってみたいことをお互いに応援し合っている。
- 夢を持っている若い人が少ないと感じる。
- LGBT当事者も使いやすい施設の整備が求められている。

5 外国人との相互理解

- 外国人と日本人、又は外国人同士が交流できる機会や場が十分でない。
- 日本では学生の頃から画一的に教育されて箱に入っている印象があり、周りと同じように考え、表現するように教育されている。ブラジルでは、自然と個性がプラスされる。
- 日本では子どもへの勉強のサポートが手厚く助かる。
- 日本で10年住んでいる。2002年に日本に来た時は、通訳などサポートをしてくれる人がおらず仕事を探すことが難しかった。2回目に日本に来た時は通訳士もいたし、子どもが学校に慣れるためのサポートや病院に行く時も通訳のサポートがあった。市役所にも行きやすくなった。
- 日本人は助けてくれる。道を教えてくれるとき、「一緒に行きましょうか」などと言ってくれる。一方で近所の人からは、私たちが日本語を勉強する気持ちがないと思われていると感じることがある。勉強したい気持ちはあ

- るが、仕事をする事が一番なのでどうしても勉強が後回しになってしまう。
- ▶ 日本に来て良かったことは、子どもの勉強に対して厳しいところと伝統があるところ。スペインでは病院が無料なので、日本では有料なのに驚いた。
 - ▶ 日本国籍がないから、日本人と同じことができない。外国人であることによって差別ではないが、私たちと関わるのをやめようと思っていると感じる時がある。
 - ▶ 妻は日本語が分からないので免許更新の時は困った。
 - ▶ 外国人の中には地域の中で何かできることを模索している人もいる。
 - ▶ ラテン系の人たちは、いつも心の距離を近づけようとしている。仕事を始めた時は言葉が分からなかったが、気持ちを近づけようとするればジェスチャーなどで伝わる。
 - ▶ 家で編み物をしているが、言葉の問題もあるので人に教えるまではいかない。
 - ▶ 世界中から人が集まっている。学ぶための良いチャンスである。
 - ▶ ロシアの餃子を作る会を開いた。作り方のみならず、どのように楽しむか、どのように生きるかなどについて勉強になった。
 - ▶ 日本の魅力を知ってもらうのはいいことだが、外国人が日本に入ってくることに怖いイメージがある。
 - ▶ 多文化共生について、国や研究機関のレベルでしか使われていない言葉であったが、最近では私たちボランティアのレベルにまで広まってきている。今が多文化共生のスタート地点であると感じる。
 - ▶ 近所に住んでいる外国人に、言葉や料理を教えてもらうだけでなく、生き方を教えてもらったという印象がある。一緒に楽しむことが重要で、外国に行かなくても海外文化に触れることができる。
 - ▶ 尼崎市と尼崎市国際交流協会が資金を出し合い、尼崎市の高校生を1ヶ月間、海外にホームステイさせる事業をやっている。その経験者は、貧困国の人々を助けるボランティアをやったりして事業としての有効性を感じるが、資金が先細りしている。
 - ▶ ベトナム人の方々とは生活文化が違う。日本人社会からは孤立して、地域の方と交流できていないし求めているように思う。
 - ▶ 日本語学校に通っていた時は、教える側と心理的な距離を感じた。
 - ▶ メールで外国人会員の方に案内する時、漢字とふりがなの両方で連絡するが、理解してもらっているか不安である。投げかけてもレスポンスがないことや、時間ぎりぎりまで集まらないことなど、日本文化社会に長くいる私にとっては不安を感じる。
 - ▶ 20年以上住んで帰化している。市民ベースでは地域住民として対応してくれるが、役所、裁判所、警察署等では、横柄な態度をされたこともあった。おそらく、日本では、「共生」という考え方が薄いのではないかと感じる。
 - ▶ 建築士の資格取得を目指したが、試験問題が日本語しかないのが支障となっている。
 - ▶ 外国人労働者の生活支援が多くなっているが、ベトナム人は日本で子育てがしにくいと感じる人が少なくないのかもしれない。
 - ▶ 外国にルーツのある児童や生徒に対し、日本語学習と、母国語や母国文化の継承の両立が必要である。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

I 自分らしいスタイルが 実現できるまち (将来像)

1 居住

- ▶ 都会と田舎の二拠点居住や移住が増加する。
- ▶ 他地域の小学校の授業も受けることが可能という連携が全国的に広がる事で、二拠点居住が加速しやすくなる。
- ▶ テクノロジーの進歩で住みたい地域で住み続けることが可能になる。
- ▶ モノを所有する生活から、リースなど持たない生活へ変わる。
- ▶ 所得は減少しても成り立つ生活スタイルに変化する。
- ▶ 住宅や道路などの開発ではなく、都市の中に大きな自然公園を作ると人口の都市集中を防ぐことができる。
- ▶ 兵庫県は都市からのアクセスがよく、それぞれの地域に魅力があるため新しいまちづくりが可能になる。
- ▶ 30年後も住み続けたいが、この先廃れていけば住みたいと思えなくなるかもしれない。
- ▶ 遠隔対話システムなどの導入により、自宅での住民票の発行など必要な手続きを誰でも簡単に行うことができる。

2 仕事

- ▶ 在宅勤務が進んだことにより家庭内のコミュニケーションが増えた。このままテレワークが日常になっていく。
- ▶ 複業が認められる。いくつも収入の柱があり、寛容性が生まれてくる。
- ▶ リモート会議が進み、必要な時に必要な人が必要なだけ協議ができる。
- ▶ 育休や産休後にまた働きたい。
- ▶ 夫だけでなく自分も在宅勤務等で働きながら、子どもをいつでも送り出せる状況にしたい。
- ▶ 奥さんにも働いてほしい。
- ▶ 働きながら子育てができればよいが、仕事を辞めて親の介護をしなければならないかもしれない。

- ▶ ビジネスを起こしたい。チャレンジしてみたい。
- ▶ テレワーク等により会社の枠組みやシステムが変わってくる中で、人材の確保やIT関連の教育研究、研修の力添えがあってほしい。
- ▶ 食品の輸出入の会社である。以前は社員が現地に訪問して生産指導を行ってきたが、現在はリモートで生産管理を行っている。海外に出張しなくても仕事ができるようになる。
- ▶ 自動化により、制約や制限が減少する。
- ▶ 世の中がテレワークに向かっているが、人の感情や熱量の加減を感じられない。「ウィズコロナ」より「対コロナ」の形で進んでほしい。
- ▶ AI、オンライン、テレワークが一般的になっている。
- ▶ 「働き方改革」は「働かせ方改革」「働きがい改革」である。
- ▶ 労働市場に参入していなかった人（女性、高齢者、障害者）が、自分の能力を活かし、やりがいと、生きがいを持ち、社会貢献する一方で、家族や仲間とのつながりを通じて充実した生き方（ワーク・ライフ・バランス）が浸透した社会になる。

3 起業家への支援

- ▶ 観光により交流人口を増加させることで、事業者の持続的発展につながる。
- ▶ 多様な人材が交流し、情報やアイデアの共有ができる拠点として、また起業家の創業支援体制の充実と育成支援を行う「インキュベーションコワーキングスペース」が増える。
- ▶ 既事業者と新しく町へ来られた事業者や起業した人との交流会を開催している。
- ▶ 個々のスキルをいかす最大限のプラットフォームがある。
- ▶ 助成金でアバターを作成している。漢字そのものがキャラクターになり、未就学児、小学校低学年のモチベーションを上げ、アニメに興味を持ってもらえたらいい。
- ▶ 直接支援する人（中間支援）を増やし、力量をつけることが求められている。
- ▶ 若い人の考え方を汲み取ってもらえるよう、行政、企業、市民の三者がうまくいくような関係を作ることができればいい。

4 ゆとり・いきがい

- 時間の豊かさが重視される。
- おうち時間が地元時間になる。
- 仕事と趣味、やりたいことの両立が増えてくる。
- 生活と仕事の境界線が曖昧になればサードプレイスが充実し、時間や気持ちにゆとりができる。
- 空いた空間を活用した自然との共生が可能になる。
- 「ミニマリスト」まではいかないが、かかえこまずシンプルな暮らしがしたい。
- 健康維持と生きがい発見のため、文化活動の重要性が高まる。
- お客様として受け身ではなく、他人の世話をする方が、張り合いがあり元気でいられる。
- 一人ひとりに考えるチャンスが与えられる。
- 個人が充実していれば人口減少は関係ない。
- 小さく始めて大きく育てる。
- 面白がる力が大切である。
- (地域で看取りをする活動をしているので) 森の中で感じる死生観もあると思われる。
- 若い人が夢を語れる時代になっていたら嬉しい。
- 一人一人のやりたいことを後押しし合える地域コミュニティ、行政サービス、企業ビジネスなどが有機的につながり合う状態になっている。

5 外国人との相互理解

- 外国人労働者の子ども達が地域社会との摩擦を軽減できるようになればいい。
- ベトナムの留学生や実習生が防災活動に参加している。
- 地域活動において外国人住民の参加を呼びかけることにより、次世代の地域活動の担い手が見つかり、外国人住民にとって自己実現の場となる。
- 外国人県民に学ぶという姿勢が大切である。
- 外国人県民から学んで地域社会に活かせることも多い。
- 外国人県民へのアプローチが色々あることが大切である。

- 外国人県民との交流パーティーが、定期的に開催されているので、参加してコミュニケーションを深めていく。
- 外国人支援団体と行政が連携し、日本と外国双方の文化や習慣を学ぶ機会を創出する。
- NPO など、比較的自由に活動できる団体がつなぎ役を担う。
- 外国の子どもの学習塾、大人の日本語教室など様々な分野での相談のつなぎ役をしている。
- 外国の人が森や市内、色々なところに多く来て、それが当たり前の風景になればいい。
- 日常的に、色々な言語で暮らせるようになればいい。
- 学校への入学や試験を受ける時、色々な言語で受験できればいい。
- 「外国人への支援」という考え方ではなく、「お互いに支えあう」という発想が大切である。
- 他国の言葉を知りたいと考えるのは、人間対人間の関係があるからで、外国の文化に飛び込んでいく必要がある。
- 会議では自動翻訳を通して、話し手と聞き手が問題なく意思疎通できるようになっている。
- 小学校に外国人がいることに対して恥ずかしがるのではなく、ラッキーと覚えること。自分にプラスになるという感覚が大切である。
- 距離を縮めれば、心と心で分かってくる。
- 学校で外国人クラブのようなものがあれば、言語や文化をお互いに学びあえる。
- 日本人も外国人もたまたま同じ場所にいる、自然な感じが良いと思う。住んでいる人に対して知識と経験を増やしてあげることが必要である。
- おもてなしや察する文化は外国人には理解しにくいですが、おもてなしの文化を知ってもらってお互いをリスペクトすることが大事である。
- 外国人のインフルエンサーを育てたい。
- 日本人人口の減少とともに外国人労働者の受入れが活発化する。
- 西宮は神戸ー大阪間という好立地なので、観光以外も伸ばしていくことで、よりよい地域づくりができる。そのためには、海外の人が地域コミュニティに入りやすい環境が必要で、受入時に多様な価値観を伸ばしていけたらいい。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

Ⅱ 自然、歴史、文化が 息づくまち、人を育てるまち (現状と課題)

1 環境

- 里山が再生されることで復活した絶滅危惧種の盗掘が頻繁に起こることが懸念され、保全活動の成果を十分にPRできない。
- 北摂里山の多くが市町の所有地であり、土地開発で取り残された斜面地があるため一般の立ち入りを禁止されている。来訪を促しにくい。
- 里山は財産だが、人の手が上手く入り加工して収入になるなど、生産性を生み出すようになれば、人の意欲につながるのではないか。

2 文化

- 日本人が日本人でなくなりつつあるように感じるので、日本古来の伝統、行儀作法などを子どもたちに教えることが大切である。
- 伝統や継承すべき文化について知られておらず、実生活での必要性が感じられない。
- 心の遊びやゆとりについての教育が不足しているように思う。
- どうしたら俳句に興味を持ってもらえるかということ日々考えている。
- 文化は人が生きていくうえで必要という意識が薄い。

3 教育

- 単身、子育て世代に健康のための食生活を伝える機会が少ない。
- 自分たちが地域や社会を構成することについて自覚が薄い。
- 大学に行くメリットは何か。学問や研究以外のことが多いのではないか。
- 大学1年生になってからまだ一度も学校に行ったことがなく、授業も一方的に見るという形である。他の人との意見交換や集まって自分の意見を述べ、他の人の意見を聞くという学びをしたい。

- 大学は4年間でどのような経験をし、自分がどのような成長をしていくのかということである。先生の話の聞くだけで本当に大切なことが学べるのか疑問に思う。単なる知識であれば、YouTubeで得ることができる。大学の真の価値は自分のやりたいことを実現させる行動であると考えている。自分のやりたいことに対してコミットできるというのが大学生活のおもしろいところである。大学の外に出ることで、高校生の時に会えなかった社会人と接することができ、この点に大学の価値がある。
- 学歴に関係なく賢い人は賢く、できる人はできるということを大学生活で学んだ。大学に行くことに大きな意味があるのではなく、世の中には自身の経験が重視される場合もある。
- 三田市には、自身の持っている知識や経験談、失敗談を語ってくれる大人が多く、学生に優しい。そこが三田市の住民の方々の魅力である。
- 西谷認定こども園は「こども園」のモデル校になり、他の地域から入園させる親もいた。小学校の在籍人数は1クラス10名程度、いずれ廃校になるかもしれない。新任の先生が赴任することが多く、熱意を持った先生が多い。
- 食育活動を通じて交流ができ、高齢単身の人に食事作りの実践を伝えることができた。
- 学校では不登校の子がいたり、いじめがあったりする。
- コロナ禍により子どもの遊びや外出が抑制されたことで、五感や身体全体で記憶する原体験が少なくなっている。
- 市内には大学がたくさんあり、学生ビジネスアイデアコンテストをやっていて、学生からは非常に柔軟な発想やアイデアを聞く。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

Ⅲ 自然、歴史、文化が 息づくまち、人を育てるまち (将来像)

1 環境

- 豊かな自然環境をいかした整備の推進、公園の整備、小規模単位で幼児から高齢者まで安心して過ごせる憩いの施設が整備されている。
- 地域らしい緑、景色があるまちになればいい。
- 動物がたくさんいる森（中央緑地）になればいい。
- 北堀運河の水質はきれいになっているが底にヘドロがたまっている。そのヘドロをさらって防波堤にしてはどうか。水自体がきれいになると住んでいる人のイメージも変わる。
- 未来へ残したい動植物の保護を実践している。

2 文化

- 伝統と文化の薫るまちづくりを目指し、歴史的な場所を掘り起こす。
- 広域連携による祭典などを通して地域が活性化する。
- 小グループ、自治会での文化活動発表に家族や知人が出演、発表していれば身近に感じて足を運びやすい。
- 定期発表会以外に、地域の小コミュニティとの交流連携に取り組んでいきたい。
- 共同作業（里づくり、環境美化、河川美化、祭り等）を通じて、互いが共に汗を流しながら働き、発掘した素材を地域に還元していく。
- 下り酒が生んだ銘醸地伊丹と灘五郷や西宮市では今津灯台などのストーリーやメッセージ性の強いものが今後商品として売れるものになると思う。
- 子どもの頃の体験は大人になってから影響するため、親子観劇など若年層を引き込む。
- アミューズメント施設と住環境との共生を継続していく。

3 教育

- この地域は人材の宝庫であり、積極的に発信してほしい。
- 普段から自然を感じる「感性」を育む必要がある。セミナーで俳句を作り自然の移り変わりを感じる。
- 漢字は「くさかんむり」「あまかんむり」など自然由来のものが多く、セミナーの中で盛り込んでいきたい。
- 宝塚市西谷、猪名川町の西南に学園都市ができていだろう。
- 小学校を選択でき、西谷の学校を希望する子の受け入れができればいい。
- 学校、家庭、地域が連携して教育を行う風土体制が整う。
- 子ども会組織は消滅し、公的な講習会、趣味のクラブやスポーツクラブ等有料活動組織に参加するようになる。
- 子ども会連絡協議会は、会員限定ではなく、可能な限り全ての子ども達が参加できるよう配慮している。
- 学生がまちづくりをすることを受け入れる体制が三田市にはある。学生が挑戦する場所を地域で作っていき、市とコラボしていきたい。
- 都心から離れたところに住む子は、家で授業が受けることができる手立があればいい。
- 子ども達のコミュニケーション能力は、クラブに入り、先輩、後輩の関係で高められる。
- 社会を支えるのは子どもであり、その子どもを一生懸命支えようという地域にしたい。
- 幼稚園児から地元で愛着を持ってもらう活動を始めたい。
- デジタル社会になるからこそ情操教育に力を入れてほしい。アナログな部分は大切である。
- 枠を超えた連携で「尼崎モデル」、「兵庫モデル」として打ち出すとおもしろい。
- 小学校から高校の間に、起業、ボランティア、プログラミングなど、自分でプロジェクトをやってみる機会を多く与えられる。
- 最近の子供は将来 YouTuber になりたいと答える子が多いらしい。ものづくりのすばらしさを体験するなど、働くことについての教育を進めていく。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

Ⅲ みんながつながる やさしいまち (現状と課題)

1 情報通信・技術

- ▶ 人や地域のつながりがテクノロジーの進化でどのように変化するか想像がつかない。
- ▶ オンライン会議は、子どもがいる人や帰宅してから公民館に出向くと間に合わない方が参加できるなど好評である。
- ▶ 4人で団体を運営しており、名刺を持っていない。フェイスブックの使い方が分からないなど困ったことについて支援している。
- ▶ エアラジオ（YouTube 動画）でお店の料理を紹介し、情報を発信している。地域と交流したいとの要望があり、川西市の寺とカフェを開催した。小さい団体の活動も知ってほしい。
- ▶ 社会が変化してリモートワークが進んだ。中小企業でも全国的に戦える力があり、活躍できるチャンスもある。
- ▶ 実際に通勤しているからこそできることはある。例えば、同僚、同級生、先輩や後輩などのつながりは自身が仕事をしていく上でのモチベーションになる。これがリモートになると、今までのようなフレンドリーな関係や会社の中での信頼関係が築けないなど、つながりが薄くなるというデメリットがある。
- ▶ 無料で使えるアプリケーションが増え、お金をかけずにいろんなことができるようになったが、デジタルデバイドの問題があり、できる人とできない人の格差が広がる一方である。

2 世代間交流

- ▶ 交流はボランティア活動の基本であり、各地区で他方面にわたって実施したが、単発的で一過性だった。
- ▶ 楽しそうと思えば活動に参加してくれる。PTAも積極的に盛り上げる役員がいると、翌年は役員の選出は立候補で役員が決まる。活動的な人を巻き込みたいが、忙しい人が多いので難しい。

- ▶ イベント参加者の多くが祖父母と孫世代で、中間年齢層の若者、親世代の参加が少ない
- ▶ 若い人が自治会のニーズを感じていない。
- ▶ ニュータウンで高齢化が進んでいる。子どもを巻き込んで「ふるさとづくり」を行っているがニュータウンには伝統行事がないため、人と人のつながりを維持していくことが難しい。

3 福祉

- ▶ 介護が必要な方が、簡単に施設に入れればいいとは思えない。田舎では介護士の手が回っておらず交通手段も無くなっている。
- ▶ 就労継続支援施設の利用者が自立した生活を送ることができることが理想だが、現実には難しく、利用者それぞれに独特の距離感がある。
- ▶ 精神障害は外見からは分からず、周囲の理解を得ることが難しい。
- ▶ 就労支援施設の利用者それぞれが「自助力」を高め、自信につながるような居場所（作業所）が必要である。

4 新規住民の受入れ

- ▶ 参加者が高齢であるため、お祭りでだんじりが引けず、軽トラックで引いている。祭りの準備などの簡素化や他の地域からの応援、男性しかできなかった役を女性でもできるようにするなど、柔軟になってきた。
- ▶ 最近の移住者は地域でイベントを企画したり、村の役を引き受けてくれるなど協力的であるが、村の財産の管理に携わる役ができない地域もある。
- ▶ 三田市で家を購入して住みたいと思っても、行政のサポートが十分でない。周りとのコミュニケーションについてもハードルが高い。
- ▶ もともと住んでいる者でないと意見をすることが難しい。

5 参画

- ▶ イベントや観光事業で、アクティブシニアと協働していくことが必要になっている。
- ▶ ボランティアが活動した対価を考えることで意識も上がり、できることが増える。
- ▶ コロナ禍で助成金が見直しになった。小さい組織は助成金がないと意欲はあっても予算的に難しい。

- ▶ 市街化調整区域の規制が緩和され、飲食店等の出店が可能になれば、より集える場所になる。
- ▶ 産官学連携と言われる。“産”と“官”は連携できているが、“学”は連携できていないと感じる。
- ▶ 活動の後継者がいないことが問題である。時間もお金も集まらない。「持ち出しのお金を出してまで人のために動くのか」との疑問もあり、役に立ちたいけど・・・という意識の狭間でモヤモヤしている。

6 少子高齢化

- ▶ 高齢者の交流の場が減少している。
- ▶ 住環境を支えるのは、地域の自治会や地縁団体といった地域コミュニティである。ただ、それらの団体も永続的に発展するわけではなく、構成員の減少や高齢化といった様々な課題を抱えている。
- ▶ 地域で活動する様々な団体が、組織の維持、拡大に取り組んでいるが、自治会が高齢化が進み担い手も減っている。
- ▶ 高齢者が引きこもることもある。
- ▶ 共働きや定年延長の影響により、学校の見守りなどの地域のボランティアが高齢化している。

7 つながり

- ▶ 行政からの通知（要請）は自治会を窓口にできるが、非自治会員への情報伝達に支障がある。
- ▶ 職業も知らない人達が集落の中に生活しているため、挨拶はするが交流する事があまりない。
- ▶ プチレッスンで自分を披露し、そこから広がってイベントを行っている人がいる。
- ▶ 顔を合わせていないと、人が埋もれていく。
- ▶ 尼崎市には熱い人がたくさんいて色々なことに取り組んでいるが、市民には行き渡っていない。
- ▶ 高齢層を中心にムラ意識が根強いが、次世代層は市町などの自治体単位を超えて連携する動きが活発である。
- ▶ ハロウィンのイベントでは地域の企業とつながり、ママがスタッフとなりパパも参加するなどして、規模が2千人となった。

- ▶ 当社（ホテル）が建築されるまでは、立地条件が全てであるが、建築後は、その地域とのつながりを大切に営業している。
- ▶ 地域の声かけは、不審者対策もあり難しい。
- ▶ 地域の溝清掃の担い手が少なく、分担する仕組みがない。隣保制度が崩壊しムラとして成り立っていない。
- ▶ 弁当を配達しながら高齢者の安否確認をして、必要に応じてケアマネージャーや家族に報告している。
- ▶ 各団体のキーパーソンへの支援や関係を深め、活動補助対象の多様化を図ることが必要である。

8 防災減災

- ▶ 台風 21 号で芦屋浜から西宮浜に被害が出た。六甲山から被害が一望できるので、機会があれば見てもらうことも大事なのではと思う。
- ▶ 伊丹市は地勢的に自然災害が少ない地域であるため、災害に対する危機感が少なく、発生時に向けた備えの意識が希薄であると感じる。
- ▶ 心肺蘇生法、家具固定について講話をしているが、参加者の高齢化が目立つ。
- ▶ 高齢化に伴い自治会やボランティア等の地域活動の担い手が減少し、自主防災会の活動範囲が限定的で会員以外を含めた活動が難しい。
- ▶ リタイア後の再就職者が増加し、「いざ、もしも」のとき、活動できる人員確保が難しい。
- ▶ 個人情報に対する規制で、個人情報の取り扱いに苦慮している。
- ▶ 外国人などいわゆる「弱者」に対し、今回の新型コロナウイルスを含め自然災害などの対応が十分に行き渡らない。
- ▶ 自治会活動が衰退すれば、災害時の対応力は公助と自助のみになりかねない。地域社会や行政は、新しい共助のある社会を模索する取り組みが必要である。
- ▶ マンションと戸建の防災活動の連携が弱く避難所運営についても統一した認識ができていない。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会



みんながつながる やさしいまち (将来像)

1 情報通信・技術

- 開発されたテクノロジーや各社が独自で行っている MaaS の実証実験等を地域、社会、行政が三位一体で運営し、一体感のあるものになればいい。
- デジタル化に対応できる専門家の育成が必要で、パソコンの活用やインフラ整備について、エンジニアが相談にのってくれる窓口があると心強い。
- 紙の文書ではなく、PDF ファイルでの通知や情報交換、電気自動車、バスの普及、持続可能エネルギーによる発電が進めば環境への負荷が小さくなる。
- リモート会議がより活性化していくことで、親の介護など何らかの事情で本当は働きたいけど働くことができない、才能があるにも関わらず遠くまで行くことができないという人へのサポートにつながる。個人と会社の両方のメリットになる。
- 将来はロボットだらけの世の中になると思う。
- 誰もが使えるコミュニケーションツール（LINE）で地域のリアルな状況を集約する仕組みを作りたい。
- 自動運転、ドローン配達、テレワーク等は便利な反面、人との関わりがなくなる印象があるので、「テクノロジーの発展＝人との関わり」の発展になればいい。
- テクノロジー、ドローン配達、テレワークの導入などで、都市集中でなく地域社会の機能低下を守り、北部の過疎化を防止できないか。

2 世代間交流

- イベントの企画において、学生に手伝ってもらえることはないか、多世代交流ができる形を意識している。
- 長寿の町でもある猪名川町。みんなで楽しみ、つながり、世代交代ではなく、世代合流ができるまちでありたい。

- 誰もが自由に集える雰囲気作りを行う。

3 福祉

- 地域の方の顔と顔がつながる場面づくりをしていきたい。
- 個性や思いを尊重できる社会であればいい。
- ニーズの多様化により、個人に深く向き合える社会であればいい。
- 数としての実績ではなく、誰か一人のためになることであっても評価されるといい。
- 親と同居して介護することも考えなければならない。
- 高齢者、触法者を含めた障害者に関係なく過ごすことができたらいい。
- 子どもや高齢者の見守りとは違って、障害を持つ方に対しては、「自分でどうしたいか」を考えるのを側で見守る感じである。自助力を高めることが必要である。

4 新規住民の受入れ

- 西谷地域への移住者は増えている。新規住民の受入れ意識が変化すればいい。
- 地域の独自ルールを新規住民に対して柔軟に適用する。（高額な自治会費の負担軽減等）
- 人口が転出していくのは、決め手となる一手がないと考える。転入者を増やす事を考えるより、今いる人を転出させないようにする対策が重要になる。
- 転居する時には地域について調べ尽くし、「福祉が充実している」「駅から近い」などの項目にレ点がいくつ付くかで選択する。レ点が多くなればいい。

5 参画

- 社会や行政から見えない個々の活動や、やりたい気持ちを拾い上げてつなぐことで、住みやすく活動しやすい地域、住みやすいまち、環境になる。
- 支援を受けるだけではなく、別のところでは支援する側になれるよう、全員が主体として参画できる社会を目指す。
- 広域交流が促進されれば、救急医療、災害時の支援、緊急時の輸送機能が強化され、より安心したまちづくりが実現する。
- 地域団体と事業者（NPO など）の連携により地域社会が充実する。

- NPO 立ち上げの相談があれば、固定費を押さえるため、固定の場所を持たないようにアドバイスをしている。空き店舗のマッチングができればいい。
- 地域の問題解決策を地域で共有する。
- 「子育てで困ったことを相談、依頼したい人」と「空き時間を活用して仕事をしたい人」をつなぐマッチングシステムがある。
- 活動の基本は自助であり、交流こそが共助であり、公助の補助金を受けることによって、目的を達成できる。制度を利用して邁進したい。

6 少子高齢化

- 使いやすい運動施設（テニスコート、多目的広場）があって、午前中は高齢者世代が、午後は子どもや家族連れが利用する環境を整えれば、全ての世代が楽しく使用することができる。
- 高齢者の安否確認等、リモートと非リモート、現場でできる事とできない事の整理ができれば高齢化の地域でも上手く使える。
- リモートでの意思疎通が可能になり、地域内での安否確認ができる。
- 子どもと離れて住む高齢者と見守りができる人とのマッチングを実現する。
- 子どもの見守りや登下校時の PTA 活動等を有償ボランティア化する。
- 子ども家族が高齢単身者をネットで見守りができると安心できる。
- 待機児童問題に直面しているので、子育ての選択の自由がある世の中になればいい。
- 若い時に叱ってもらったことが心に残っている。親から教えられなくても周りから学ぶような地域社会でありたい。
- 元気に現役で活動できる高齢者も貴重な人材として、長く仕事に従事できる社会になっている。
- 働く意欲を持つ高齢者や女性が働ける環境が整えられることで、世代、性別に関係なく活躍の場が広がる。

7 つながり

- リアルタイムで画像や動画を使い、自宅で簡単にできるコミュニケーション手段を確立する。
- 地域交流カフェや地域ふれ愛福祉サロン、こどもの居場所などの「つどい場」がある。
- 1つのコミュニティに1つのカフェがあるくらいが有効である。
- 市町単位(自国主義)ではなく、「阪神共和国」で連携できればよい。
- オンラインが増える中で、人と会う価値が上がる。
- 人とのつながりが地域へ広がり、見守り体制の構築ができる。
- 非常時には、お互い様で助け合えるつながりのある社会であってほしい。
- 年齢に縛られないフラットな感じになれば、何の活動をするにしてもおもしろい。
- 人と出会うことで交流が生まれ、活性化につながる。
- 人と顔を合わすことで得られる充足感を失わない社会でありたい。
- 一人ひとりが輝ける社会になってほしい。
- 学校の活動とあわせて声かけ運動ができれば、いい空気が広がっていく。

8 防災減災

- 住民のニーズは多様化、個人の主張や要望は強くなっている。それに対応できる自治会組織（従来の小規模自治会組織と中規模自治組織の併用）が望まれる。
- 普段ラジオを聴かなくても、災害の時は必要である。高齢者はホームページを見ることが少ないので、ラジオでホームページの内容を伝えるようにしている。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

IV にぎわいのあるまち
(現状と課題)

1 芸術

- 集会場、稽古場、練習場の不足に新たな発想と展開が必要である。例えば、アートビレッジ構想(練習村)、長期間滞在型の制作場所、楽器置き場付き吹奏楽練習場、演劇練習場など集団生活ができる練習場及び制作場など。
- 県立芸術文化センターでは、本物のオーケストラを鑑賞できる。この地域には本物に触れる機会がある。
- 劇場には団体客より個人客が増えた。沿線価値を高め歌劇を活かしたまちづくりや舞台技術の継承が課題である。
- 住宅街の中のアミューズメント施設として地域の理解を得る必要がある。

2 交通機能の整備

- 地形上、阪神地域は南北の移動が不便であるため交通政策が必要である。(デマンドタクシー等の導入、将来を見据えた自動運転による移動サービス等の導入実験)
- 高齢者の社会参画、労働参加の必要性が高まっているため、移動手段の確保が必要である。
- ラストマイル問題(バス停から自宅までの移動手段がないこと)が発生している。
- 人口減少や高齢化が進む農村部や傾斜が多い山手地域では、誰もが移動しやすい交通環境が求められているが、バス路線の維持が困難となっている。
- サイクルマップはあるが、スポーツサイクルを借りることができる場所(サイクルステーション)がないので、手軽にサイクリングを始められない。

3 ツーリズム

- 大阪市から川西能勢口まで電車で20分程度、空港(伊丹)からもアクセスがよく、インバウンドが未知数ではあるものの、地域外から来る人の受け入れ体制がない。

- 神社の境内に種をまいて数十年後にもみじのトンネルをつくる活動や、スタンプラリー、芸術祭、民話にちなんだ物語イベントなどを企画している。
- 中国人のホテル利用者によると、尼崎はどこに行くにも便利であるという。
- グランピングなどのアウトドアが注目されている。災害時には非常に役に立つと思う。
- 「宿泊してでも行きたい」という資源がない。日帰り観光客をターゲットに空き家や古民家を活用する必要があるが、市街地開発の規制が厳しい。
- 多くの人に来てほしいが、騒音等で「人が来ると困る」と言う人もいる。

4 農・食

- 小さい農地を兼業でするのは現実的には難しく、山間部の大きな農地で農業をするのも難しい。農地を守っていくというのは並大抵のことではないと感じている。
- 米や酒米が売れず、これから酒米が作れなくなるのではないかと心配である。経費がかかり、価格が安くなると、農家が立ち行かなくなり遊休農地が増える。
- 農業で生計を立てるのは難しい。耕作放棄地になって荒れると周りに迷惑をかけるから百姓を続けている状況である。
- ピーマンは農協を通じて全て大阪に出荷される。流通経路が確立されて安定した収益が見込めるが、地元の人が「三田ピーマン」を知らない。
- 地産地消で消費者に生産したものがすぐに届くことが強みである。休耕地や畑があるので、若い人達に農業に触れてもらい、新しい農業者を増やすことが課題である。
- 「地元の特産」と「観光農園」と「他の地域でも作っているものを大量に生産する」のどこに力を入れるべきか悩んでいる。
- 女性の農業者が少ない。
- 都市部で農業をするには倉庫が必要である。倉庫部分の相続税を軽減できれば農業を続けていけるし、子どもに将来設計を提示できる。
- 相続の問題で近隣の人は農地を手放している。
- 多くの農家がインショップを展開し、地産地消の取り組みをしている。
- 農業機械のシェアリングを進めることが大事だが進んでいない。

5 経済

- 輸送技術の進化で鮮度維持が難しい商材が地方産地から量販店に並ぶようになり、競合する結果、価格低下により専業農家の生活を維持できるだけの所得が得にくくなってきた。
- 市民の商店街離れが著しい。
- 技術の進歩により、経済が発展し快適な暮らしが進んでも、大きな家の高齢者世帯、未婚の若者単身世帯などが残り、都市と農村における地域格差が広がっていくことを懸念している。
- 大型店舗やチェーン店の増加により、小さな小売業は経営しにくくなった。
- 住宅都市としての側面が強く、観光を核とした地域経済の活性化が進まない。
- 地域の雇用を増加させるため、企業訪問を実施する。
- 建設業界も働き方改革を進め、若者の就労促進と同時に、熟練者も大切にする。
- 製造業に従事する中高年への IT 教育をサポートしている。

6 まちづくり

- 三田市のまちなかに学生が集まれる古民家という基地を構えた。普段会えない大人と学生が話す機会を作ることで、学生の人生が変わり、街にとっても新たな化学反応が起こっている。
- 森の中にレストランを作ろうとしても市街地調整区域の地区計画により容易にできない。
- 三田市は再開発をしようとしているが、昔から住んでいる人は景観や景色を守りたい。飲食店などの再開発も必要だと理解していて複雑な気持ちである。
- 大学で都市政策を専攻している人が、都市研究会で研究やロジックを考えている。三田市でアルバイトをしている人、古民家の場所作りをする人、市の総合計画を市民と一緒にやっていくプロジェクトの学生枠で参加する人、三田の田舎の地域で活動する人など皆、つながりがある。
- 大阪の人間なので田舎に興味がある。立地がよくアクセスしやすいという点で三田市に魅力を感じている。
- 行政の関係課と知り合いになりにくい。地域の集まりに出向いて、この件については誰に

聞いたらいいか尋ねる中で、出会いが繋がっていく。

- 「えんがわ CAFE」は他の地域から来てもいいが、協議会の事業であるからしぼりがある。「えんがわ CAFE」から広がり、個別にイベントを行っている方もいる。
- 住んでいる地域を良くしていくため、小さいことから地域の魅力を伝えていくことが人口増加につながるだろう。
- 住宅が密集している伊丹市では、騒音等の問題もあり、イベントの開催が難しい。若者が多自然地域に流出する可能性がある。
- まちづくりの担い手は地元商店主や個人事業主が大半で、仕事の第一線から退いた高齢者も多く、活動内容が外から見えづらい。
- 昔から住民合意がとりにくい地域があり、問題が複雑化している。若者が活動しにくいいため活動しやすい地域へ移っていく。地域の二極化が起こっているのではないか。
- 新しくできたまちは歴史がなく、横のつながりが少ない。
- イベントに参加する人が「ジブンゴト」として考え、「一緒に」楽しめるよう意識して取り組みたい。関わる人と一緒に意見を交わしながら、楽しく事業を盛り上げるように工夫している。
- イベント関係者は現在千人以上であるが、スタート時は15人くらいの実行委員会だった。昆陽池自治会で説明会を開き、周辺住民の理解を得た。お互いに理解してもらっている人に仲介してもらった。
- 将来的なビジョンの話聞いて、共通のビジョンを持ってみんなで力を合わせて同じ方向に向かっていくことは非常に大事と認識している。一方で、現在の課題を解決することが、今生きている人が、「この地域が良くなったな」と実感できることだと思う。

7 空き家

- 阪神地域南部(都市部)と北部(山間部)において、空き家問題に対する意識の違いがある。
- 両親をこちらに呼ぶと、実家が空き家になるのが心配である。
- 都市部では空きスペースを確保するのに費用がかかる。
- 空き家の問い合わせがあり、移住希望者は多いが物件が足りない。

2-1 ヒアリング・アンケート調査結果、語る会

IV にぎわいのあるまち (将来像)

1 芸術

- 地域を巻き込んだ芸術祭を開催する。
- 小規模であっても地道な活動を続けていくことで、文化活動に参加する人口が増える。
- 文化活動は、ライブで共有するのが理想だが、ネットワークを通じて誰もが気軽にどこでも接することができる。
- 地域とつながる音楽会、茶会や写真展、絵画展が開催されている。
- 出演するアーティストと参加者、参加者同士が交流できる事業を実施することで、文化芸術を通じたつながりや、さらなる活動の広がりを生み出す場を提供している。
- 場所と市民団体をマッチングする。
- 文化芸術は一部の愛好家のものではなく、生活の質を高め、心豊かな生活を送るうえで不可欠なものである。また、文化芸術が持つ社会包摂機能により、様々な社会的課題を解決できる可能性がある。
- バーチャルなアートイベントが可能になれば、リアルなアートイベントは、美や芸術の鑑賞だけでなく、リアルな熱気を感じることに価値がシフトする。

2 交通機能の整備

- 東西の交通に関しては問題ないが、南北間の交通網の整備ができれば地域のつながりが広がる。
- 道路整備を進めて、エコサイクリングタウン川西を目指したい。
- 地域の子どもを対象にしたイベント等、沿線と共に成長し続ける未来を目指す。
- 次世代交通に関する取組み（自動運転実証実験等）を行い、自動運転車が普及している。
- MM(モビリティ・マネジメント)活動、車両の安全装置などの高度化、運輸安全マネジメントを実践している。

3 ツーリズム・魅力発信

- 世代別のニーズに合ったイベントの開催、おしゃれなマルシェや朝市、夜市などを開催する。
- 電車に乗ってもらうことが沿線の活性化につながる。各市連携しながら、酒造りやスポーツを核とした地域振興、観光フェスなどを行っている。
- 酒蔵ツーリズムを展開したい。この地域の集客の強みをいかし、日本遺産のストーリーを取り入れたい。
- 山の中にある施設を利用して最低限のインフラを整備すれば、オフィスになったり、キャンプしながら仕事したり、災害時には避難所になるなどメリットがある。
- 民泊ができれば人が呼び込めるし、週末だけ帰って来る人や、週末だけ泊まりに来る人が増える。
- 県の有馬富士公園はアクセスがいい。世界的に有名なアーティストを呼んで10万人以上のコンサートホールやサーキット場を作るとか、青野ダム周辺の土地などをうまく使えば、人を集めるのに一番いい場所ではないか。
- 都会からアウトドアや自然を楽しむ人が日帰りでたくさん来て、ゆったりした暮らしを望む人が都会に近い阪神北地域で暮らしている。
- インターネットで外国人観光客の検索キーを見ると「かに」「いちご」が上位に入る。「いちご」で三田の魅力を発信できると考えている。
- 「住みよいまち」「地域を盛り上げる」どちらも必要であり、バランスが大事である。

4 農・食

- 地元産農産物の販売をマルシェとして実施している。
- 法人組織で経営することで、生育状況の把握、重機の管理が可能になり、農家の負担が減少する。
- 三田市が阪神間全ての学校給食に使用する農産物を提供するなど集中管理システムができると、農福連携の新しいやり方が考えられる。
- 「三田ピーマン」がブランドとして出荷され、地元で売られることで、認知されて愛着につながるだろう。生産者と客をダイレクトにつなぐ売り方や見せ方の工夫が必要である。

- 通信販売や飲食店等に直接売るなど、売り方が変わってくる。
- ものの売り方（付加価値をつける）や客が求めるものは変わっているだろうが、少々高くても安心して安全なものが売れる。農薬の量を示して、どれくらい安心かを消費者に伝える時代になるのではないか。
- 農業生産活動において、営農の組織化、法人化による安定化を図ることで、地域資源としての農地の維持管理と営農活動の継続は可能になる。

5 経済・産業

- 外出しなくても物を買うことができる社会になったが、人と会うために外に出て積極的に活動すれば地域が活性化する。
- 企業は最先端の技術で強いビニールハウス等を作っているのだから、私たちがアドバイザーとして入ると、最先端の技術を目にすることができて勉強になる。企業としては農業に関わっているとホームページでPRすることができるし、私たちの活動も紹介されるかもしれない。企業が農業に関わりたいというのと、農業者がつながればお互いが上手くいくのではないか。

6 まちづくり

- 同じような建物ばかりでなく多様性のあるまちになればよい。
- 子どもを大切に、今まで頑張ってきた高齢者を大事にするまちにしたい。
- 森構想のエリア周辺では、工場集積地と住宅地がはっきりと分かれすぎているので、住宅と工場が入り乱れる状態が理想である。
- 尼崎をベネチアのような住宅街にする。ゴンドラがあったり、家があったり。30年くらいのスパンであれば考えることができる。
- 子ども達や学生が企画運営し、大人が支える行事に転化していく。
- テレワーク等で空いた時間に地域活動へ参加してもらい、対価を払う仕組みができる。
- 人口流入を期待するより、人口流出を食い止め、住んでみたら結構いいと気付いてもらえることが重要である。やりたいことがやりたい場所でできる仕組みができている。

- 関わる人と一緒に意見を交わしながら、楽しく事業を盛り上げるように工夫している。
- トレーラーハウスやキッチンカーなど新しいコミュニティスペースの形、通信環境の整った多様な使い方ができる空間を拠点に活動していきたい。
- イベントを開催する時に必要な制度や手続き等を伝え、若者が活躍できる場所がある。
- イベント開催時は、できない人が頑張るより、できる人が少し手伝うような体制、義務ではなく、少しの時間でも気軽に関わることができるよう、広くゆるくつながっていききたい。
- サラリーマンや若者が働きながらでもまちづくりに関われるような活動の仕方がある。
- 「出入り自由」という気楽さが不可欠である。各々がやりたい活動を自由に話し合う場と、アイデアを持った人と行政を結びつけるキーパーソンがいる。
- 地域に入ろうとした時に、「伴走」してくれる人がいれば、一步を踏み出しやすい。対話の中で一緒に考えて決めたことをオープンにすることができる仕組みを作っていきたい。
- 「まちづくりをしよう」というと、まちづくりに興味のある人だけが集まるが、「学生の基地をつくろう」というとみんな集まる。人は楽しいことがやりたいので、楽しくあるべきである。

7 空き家

- 古い物こそが新しいという発想で考えていく必要がある。リノベーションが定着してきて古民家も古いものが新しいという考えもある。
- 古民家バンキングが徐々に動いている。地域の人が行政に情報を提供していくことや、おもしろいことを発想する人とつなげていくことが重要である。
- 様々なイベントや体験がきっかけになり移住する人が多くなり、空き家が埋まる。

8 スポーツ

- 子どもに何をさせるか、何が向いているかわからない親子に、10種類以上のスポーツ体験ができる場を設置する。
- スポーツと文化の融合領域があって地域が元気になる。ダンス、スケートボード、BMXなど、騒音の問題もあるが伸ばしていきたい。

2-2

未来ミーティング（地域デザイン会議）提言

①保育・教育グループの提言

① ヴァーチャル空間を駆使した
「第2の家庭」づくり

アバターなどを介してのつながりを構築し、AIを活用し、参加者の興味関心や専門分野などをもとにマッチングする。

② 週1日は別の家庭で暮らすような
「第2の家庭」づくり

現実の家族には相談できない悩みを相談できるような憩いの場所をつくる。

共通の趣味や同じ目標を持った、実際とは異なるコミュニティに身を置くことで個々の成長につなげる。

③ AIを活用した、地域の相談相手とのマッチング

若者と大人など特性を登録した上で、その情報からAIがマッチングを行うことで、悩みや不安があった際にそのつながりを活かすことでの解決を図ることが出来る。

④ 同地区内の「つながり」の構築

～具体例～

- 回覧板/掲示板で情報を共有する
- 地域/自治会主導の企画を催す（清掃活動・夏祭り・BBQ・キャンプ・・・） など

少子化、共働き家庭が増える中で、顔を見知った隣人同士を作り、育児をはじめとした困難に陥った時に皆で助け合える繋がりをつくる。

⑤ 「見守り」から始める安全な地域づくり

- シルバー人材の活躍の場として活用し、治安の維持を図る。
- 子ども達へはあいさつやマナーを守ることへの気づき機会になる。
- 保護者へは、子育てにおけるの安心安全を構築しているという意識を持ってもらう機会になる。 ⇒若い家庭の定住意識を高められる

～具体例～

- 通学/通園時の「あいさつ運動」
- 地域の見守り・パトロール など

②多様な働き方グループの提言

9つの達成基準を定義

多様な働き方を実現するために、企業や行政が提供・支援を達成すべき項目として9つの基準を設定。

満たしている項目が多いと多様な働き方を実現できている可能性が高いといえる。



1 リモートワークができる

労働者が希望すれば、担当している業務の一部ないし全てをリモートワークで勤務できる。



2 ダブルワークができる

業務時間外でのダブルワークを制限しない。労働者が希望すればダブルワークの支援を行っている。



3 残業が少ない

残業が少なくなるように対策を取っている。



4 成長できる環境がある

自らのキャリアやスキルが向上している実感が持てるように業務を設計している。



5 働きやすい雰囲気を作っている

互いに尊重し合い、協力や協調を通じて仕事を遂行するような社内の雰囲気を実現している。



6 キャリアを実現するための教育がある

労働者が希望すれば、理想のキャリアを実現するための教育支援を行う仕組みや制度がある。



7 休みが取りやすい環境がある

有給、育休、産休などの制度が作って終わりではなく、休みが取りやすい環境を作っている。



8 理念やビジョンを発信している

理念やビジョンなどの情報を労働者が入手しやすいように発信している。



9 変化に対して柔軟な働き方ができる

ライフスタイルの変化などの変化にも柔軟に対応した働き方ができる。

③地域のつながり・コミュニティグループの提言

■理想のコミュニティ形成

★コミュニティを形成する「ツール」

◆マッチングアプリ

・・・年齢・性別・恋愛・趣味嗜好以外でも繋がれるアプリ。

【お助けシステム】

子育て: 仕事が忙しくて保育園に迎えに行けない親⇄子どもと関わりたい人
料理: 晩御飯作る時間がない人⇄料理を作りすぎてしまった人
教育: 勉強ができない人⇄教えることで勉強になる人

【グループ作成】

・1対1ではつながることができない
・同グループ内に〇人以上参加することでグループ作成
・それぞれの基本的なルールは運営が決める

【家族的コミュニティ】

・年齢、性別がバラバラな人間が集まる
・数日家族としてシェアハウスで生活をする

★コミュニティを形成する「場」

人と人がつながるまち＝「シェアタウン」

・・・年齢・性別・恋愛・趣味嗜好以外でも繋がれるまち

【趣味・嗜好共通番地】

・〇〇番地は阪神タイガースファンしか住めない
・〇〇アパートに住んでいる人は毎週末全員宝塚に招待
・〇〇酒造の酒蔵見学をした人は〇〇町への移住権がもらえる

【優待制度】

・まちぐるみで投資を行い、配当金はより自由度の高い税金になる
・地域内の大学出身同士で結婚し、居住をした場合は家をプレゼント

【家族的コミュニティ】

・年齢性別の違う人同士でのシェアハウスを斡旋
・同地域はシェアハウスが密接にありそれぞれ自由に移動も可

■理想のつながり

年	問題	現状の課題	2020年～	2030年～	2040年～	2050年
ツール	コミュニティを探るのが大変。 気軽に参加できる コミュニティがない。	手軽に・身近に 参加できるツールを 作る	お助けシステム	グループ作成	家族コミュニティ	シェアタウン
場	コミュニティに 興味がない。 つながりが希薄。	コミュニティへの興味を いかに高めるか	行き交うまち 帰るまち	出会うまち	家族コミュニティ	
人の動き	単身者の増加 少子化 高齢化	単身者の増加で どのようなつながりを 作るか	オンライン活性化	AI・自動運転の活性化	家族コミュニティ	
			コミュニティツール作成			
			阪神地域らしさを活かしたまちづくり			
			少子化・高齢化・人口減・外国人増加			人とのつながりの 重要性上昇

④若い世代の定住定着・呼び込みグループの提言

若者同士が繋がれる地域の共助網構築

2021年（現在）

住む場所として人気だが…

（課題）

若者（一人暮らしや子育てスタート世代）の地域とのつながりが希薄

→若者の孤立

→既存コミュニティの

高齢化

（特に阪神北地域）



2030～2040年代

若者・子育て世代×地域
ニューノーマルなコミュニティ

・ボランティアマッチングにより
繋がりを後押し

・地域(ex：自治会)が善意に対して報酬を出すことで頼り/頼られやすく

→地域に若者が不可欠に

→地域×若者の

助け合いを後押し



2050年の将来像

地域のファミリー、若者、高齢者までほどよく繋がれる次世代の地域像

◆若者と地域が繋がる

◆子育てを楽しみつつ、
息も付ける

◆高齢者も地域と繋がる

どんな世代も地域の日常を楽しめる阪神地域！

最新技術を活用した保育効率化のモデル都市

2021年（現在）

保育をする人もお願いする人も
子育てしづらい環境

・子どもと触れ合うことに専念しづらい

・仕事と子育てを両立しづらい

・いざというときの不安

・地域で子育てではなく、
当事者だけに負担が掛かる現状



2030～2040年代

バーチャルとリアル両輪で
保育に関わる人、家庭内両方の
子育てカイゼン

・保育士さんの業務負担をITで軽減する仕組みづくり

・いざというとき安心して子どもを預けられるシステム

・保育園で預かれない時も、適切な場所をマッチングするシステム

・子どもと地域の人を趣味などをトリガーに結び付ける



2050年の将来像

子育て先進地域・阪神地域

地域みんなが当事者意識を持ち、
子育てできる地域へ

2-3

学生アンケート結果

概要

若い世代の意見を新しいビジョンに反映させるため、以下のとおりアンケート調査を実施。

実施日：令和3年6月11日～7月末

回答数：2011人

対象：阪神地域管内の高校生（主に阪神北管内の6高校の第2学年）と大学生

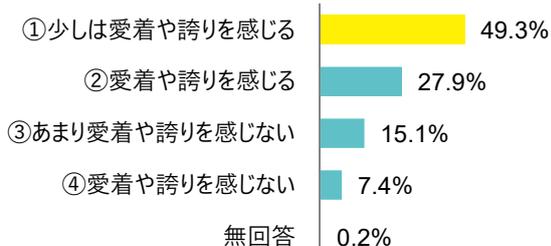
居住地

尼崎市(116人)、西宮市(127人)、芦屋市(3人)、伊丹市(626人)、宝塚市(405人)、川西市(373人)、三田市(152人)、猪名川町(92人)、その他(101人)、無回答(16人)

現在の阪神地域について

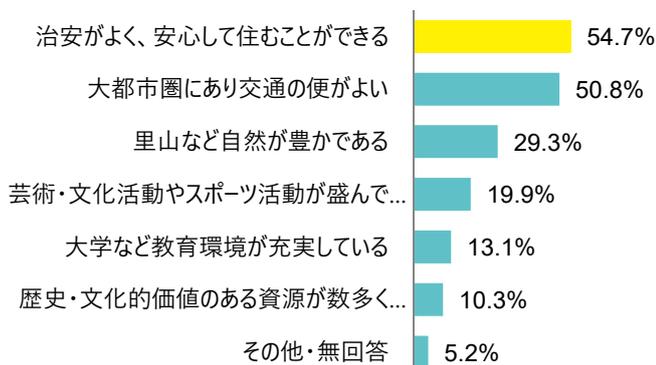
問1

阪神地域で教育を受けること又は住むことに、愛着や誇りを感じていますか。



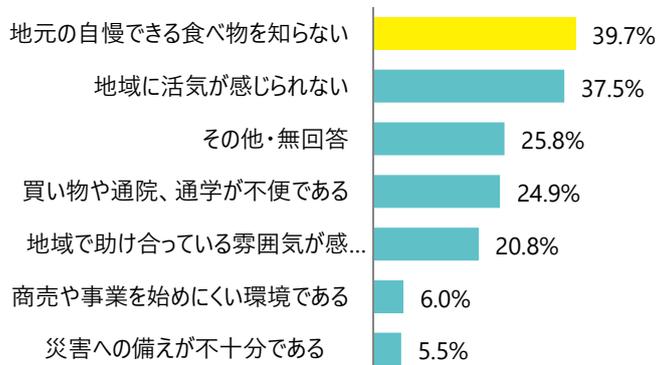
⇒問1で①～②と答えた人

阪神地域に愛着や誇りを感じるのどのようなことですか。（複数回答可）



⇒問1で③～④と答えた人

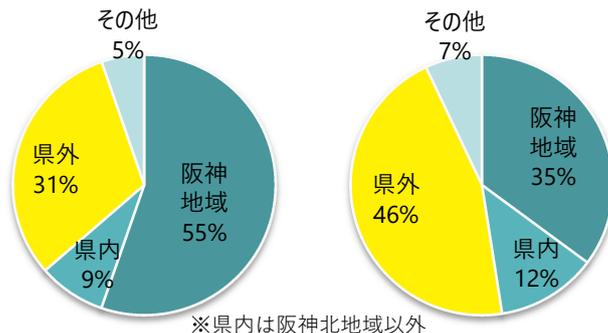
阪神地域に愛着や誇りを感じないのはなぜですか。（複数回答可）



30年後のあなたについて

問2

暮らしたい場所、働きたい場所はどこですか。



30年後の阪神地域について

問3

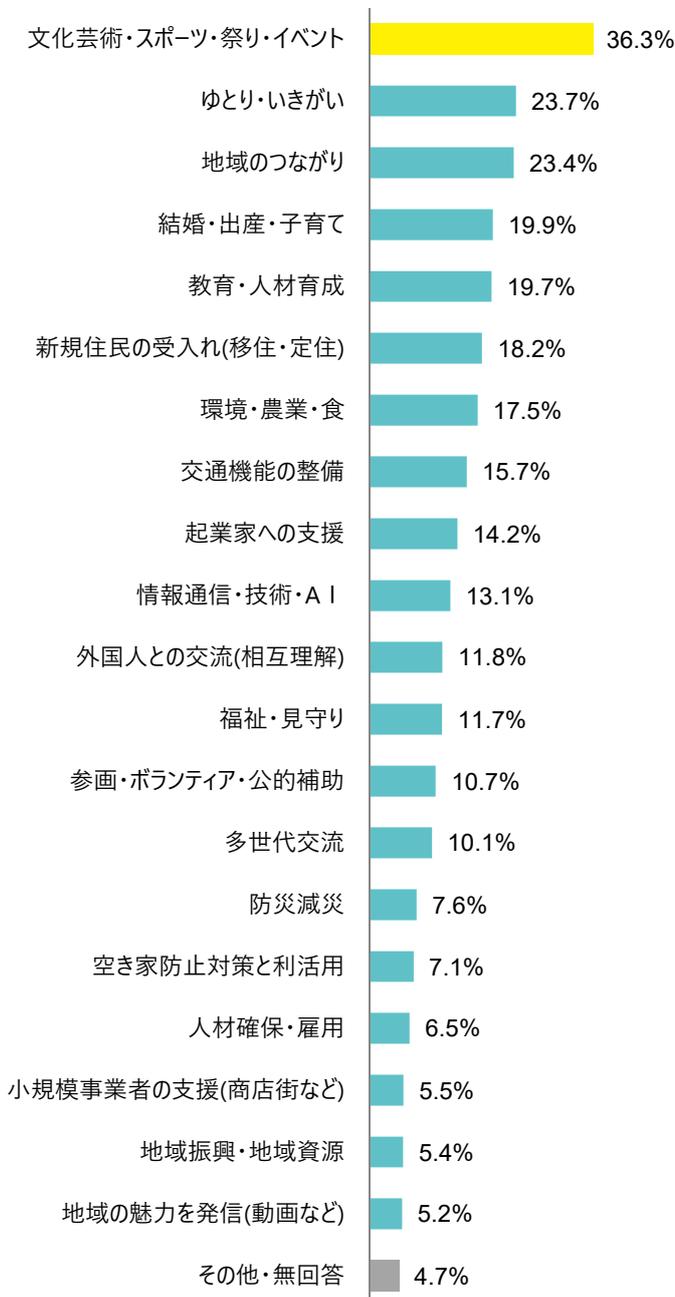
30年後にあなたが阪神地域で住んでいる（働いている）とすれば、最も重視するのはどこですか。



30年後の阪神地域について

問 4

問3で答えたまちを実現するために必要なキーワードは何ですか。(複数回答)



自由記述

30年後の阪神地域の理想の姿

- 誰もが国籍やジェンダーを気にせず、自分を素直にさらけ出せるまち
- 自分がしたいことを楽しくして過ごせる
- 平日でも学校にいかず家で授業を受ける日がある(週2ぐらいで)
- 新しい事業を始める。ショッピングセンターの充実。人間がロボットに仕事を取られないような仕事を作る
- 道路が整備され住民が安心して過ごせる。
- 自分の夢がかなえられて、近所付き合いができる
- 大きいレジャーの施設がある
- いろんなスポーツができる広大な公園がある
- 自然豊かで地球らしい緑豊かなまち
- 自然と都市機能が融合したまち
- 空気がきれいで自然ゆたか
- 自然と情報技術の2つを軸とする姿
- 西宮市北部の整備が進んでいる
- 本屋、古本屋を増やしてほしい
- 日本の原風景を身近に感じられる
- 自然が豊かで身近にある、そして芸術や文化の活発なまち
- 安心して子育て世代が暮らせる
- 皆が協力しあってすれちがいで挨拶ができるくらい仲良いまち
- 犯罪が起きないまち
- ごみが落ちていない、誰もが自然に挨拶し合えるような思いやりのあるまち
- 学生がもっとくつろげる、やすらぎある場所
- 若い世代の人も選挙に参加するという地域
- 子どもが遊べる場所がふえたらいい
- エアポケットに入りやすい子ども・高齢者等の支援を充実させる
- 悩んでいる若者の相談を聞き、良い方向に導く事が出来る
- しっかりとした補助があり、子どもが安全に暮らせて、育てやすいまち
- 騒音が無い
- 空き家が少なくなっている
- 奇妙・楽しい・面白いまち
- 柔軟でクリエイティブな教育が行われている
- 南海トラフの対策をし、乗り越えて新たな世代との繋がりを強め、にぎわいのある地域

2 - 4

阪神地域夢会議 (未来フォーラム)

概要

新地域ビジョンの策定にあたり、4つのテーマに分かれて、オンラインと会場でテーマにそった、望ましい未来像を話し合った。

日 時

令和3年8月1日(日)13:30~16:30

場 所

リードあしや及び Zoom

出席者

120人 (オンライン 70人、会場 50人)

テーマ：多様な働き方

未来像：

- 自分のやりたいことができ、働く時間を決め場所を選ばずどこでもできる未来をつくる。
- 働くための環境整備と、働き方についての相互理解で、心身や生活状況に関わらない働き方ができる未来。
- 個人のライフスタイルを尊重し、自由に働くことができる社会。

テーマ：子育て、まなび

未来像：

- はじめましてがなくて、みんなが助け合え、笑顔で楽しく生きる未来をつくる。
- 世代を超えたつながりで、安心感の持てる創造性豊かな未来をつくる。
- 自己も他者もひとつの命。互いに認め合うことで、横のつながりを大切に共創できる未来をつくる。

テーマ：地域とのつながり

未来像：

- パッと会った人同士（観光客も含む）であいきつしあえて、尊重しあえる未来をつくる。
- 多世代で学び合い、交流し、格差がなく、若い力をネットのツールを通じ社会にいかせる未来をつくる。
- テクノロジーも使いながら、どこでも若者が集える、若者が中心となって活躍できるような未来をつくる。
- 多世代が交流し、お互いを尊重しながら、つながり、助け合い、世界に通用する魅力がある未来をつくる。
- 持続可能で、より平等化を実践し、誰もが助けあえる未来をつくる。
- お互いがお互いを理解して、暮らしやすい阪神地域を作る。

テーマ：住みたい、訪れたいまち

未来像：

- 自然や緑が多くて、外国人・子供・高齢者、みんながコミュニケーションをとれて、みんなに優しい未来をつくる。
- 災害に強く安心安全で、地域ぐるみで育み合って、すべての人の格差のない未来をつくる。
- 阪神地域の豊かな自然環境をいかしながら、多世代が仲良く協力しあって進化して安心して楽しく暮らせるような未来をつくる。
- 災害のない安心安全で、自然を大切に住みやすい、きれいな街で、老若男女が共に学びができるような未来をつくる。
- 自然あふれる阪神で、子育てしやすく、関わりを大切にできる未来をつくる。
- 高齢者、障がい者、みんなが安心安全な自分の街を知り、伝えていく。

2-5

阪神南地域
未来フォーラム

概要

阪神地域の 2050 年の将来像について意見交換会を行った。

日 時

令和 3 年 10 月 28 日(木)16:30~17:30

場 所

尼崎商工会議所

出席者

10 人

発言要旨

- 複業やキャリア、ショートワークなどがシニア層のセカンドキャリアとして非常に人気がある。兵庫県から多様な働き方を推進してほしい。
- 兵庫県で学んだ学生が県内で働くために学生時代から地域に繋げるキャリア支援が必要である。
- 兵庫県内での就職率は非常に低く、県内の大学生に対して、兵庫にある企業の魅力をより高めることが重要だと感じている。
- 生活支援や就業、女性のひきこもり、DV被害、社会的な立場が弱くまだ活躍できていない女性への支援を手厚くする必要がある。
- 未来の阪神南地域では多様な働き方が拡がり、ジェンダーバイアスがない社会が理想。
- 働く子育て世代として将来の理想は、安心して子どもを産み、育てながら自分らしく人生も仕事も楽しめる社会であってほしい。
- 得意なことを活かし、皆が主体的かつポジティブにチャレンジできる社会になってほしい。
- 地域活動を行っている人が高齢化と担い手の問題に直面しており、ICT も全く進んでいない。
- 「外国人には支援」という一方的な活動がされていたが、同じ地域に住む市民として対等

な付き合いでないと多文化共生とはいえないと感じている。外国人の多様な考え方を学べるチャンスだと考える。

- 芸術文化の保護と継承がよく謳われるが、もともとその地に根付いた文化と精神を守った上でのアートとしての保護、継承が重要だと感じている。
- 自由に気軽に繋がれる社会。地域で気軽に繋がるといえることについては非常にハードルが高い。
- 多世代での交流や人付き合いに重きを置いたビジョンがもう少しあってもいいと思う。
- 人口問題は街のにぎわいづくり、消費需要減少、雇用にも影響する。
- 長期的な視点でインフラ整備、まちづくり、まちの在り方について考え、魅力あるまちを作っていきたい。
- みんながビジョン、コンセプトを持って大きな計画のもとに合意形成し、まちづくりをすると、時間はかかるが、魅力あるまちになり、自然と人が集まる。

2-6

阪神北地域
未来フォーラム

概要

阪神地域の 2050 年の将来像について意見交換会を行った。

日 時

令和 3 年 11 月 13 日(土)13:30~14:45

場 所

三田市まちづくり協働センター

出席者

10 人

発言要旨

- ▶ 学生が活発に活動して、地域の方とのつながりが強くなればいいと思う。
 - ▶ 学生はまちに入り込んで活動し、楽しかったという活動からまちに愛着を持つ。「学校のあるまち」ではなく、「関わり続けたいまち」としてもらいたい。
 - ▶ 大人も子どもも支援したり支援されたり、みんなが共感しあいながら影響し合い、学び合っって変化していく場を作りたいという思いで活動している。支援される側だった人も今はスタッフとして積極的に雇用している。働き方の変化により仕事と生活の境目があいまいになっていくことが、子育てに影響があるのかもしれないと考えている。
 - ▶ NPO 法人の中間支援機能の役割を身体で例えると自律神経的な役割をするのではないかと思っている。身体の小組織が順調に働くように調整して血流や状態が良くなる。
 - ▶ 阪神地域で一つのテーマパーク的なものを作り上げてはどうか。西宮では甲子園球場周辺にスポーツパーク、宝塚では宝塚歌劇場周辺に文化パーク、西宮、宝塚、猪名川で里山パークなどがあれば、魅力ある阪神地域として発信できるのではないか。
 - ▶ 自給自足、地産地消の原則により、第 6 次産業化とテーマパークが連動することができるなど、人々が満足できるような将来像を作ってほしい。
- ▶ 住むまちというより、働きながら住めるまち、生活ができるまちがいいと考えている。コロナ前はコワーキングスペースを個人事業者の方が中心に利用していたが、コロナで在宅勤務のサラリーマンで安定した通信環境の確保と仕事に集中するために利用する方が増えた。阪神地域を生活しながら働ける場所にしたい。
 - ▶ サラリーマンで平日は働いているため、週末を中心にまちづくり活動している。地域住民をどう巻き込んでいくかという仕組みは、団体間の横のつながりで情報共有ができれば問題解決につながる。
 - ▶ 住みたい人への家の供給について、空き家を貸したくない、新しい人の受け入れが不安という人もいるが、里山の保全は住民に不可欠であるので、人を受け入れていかないといけない。外部の方に来てもらい、外部の方と関わることで循環して自然を守る。また都市部の方は健康になるなど選択肢が広がる。
 - ▶ 鳥獣害の問題や農村地域の過疎化や高齢化の課題をクリアしていくために、住んでいない家や農地を新規就農者に貸すなどして新規就農者を増やす取り組みに力を入れ、放棄地が増えないような対策が必要である。

2-7

阪神南北地域ビジョン 委員会意見交換会

概要

新地域ビジョンの策定状況に対する理解を深めるとともに、ビジョン委員同士で意見交換を行った。

日時

令和3年10月9日(土)13:30~16:00

場所

阪神北県民局宝塚庁舎及び Zoom

出席者

54人 (オンライン 28人、会場 26人)

講師

阪神新地域ビジョン検討委員会委員長
兵庫県立大学自然・環境研究所教授
赤澤 宏樹

新地域ビジョン案に対する 疑問点の共有

- ▶ 地域活動で女性の参加を増やし、いろんな立場や役割も担っていただいて、活躍していただく必要があるのではないかな。
- ▶ 博物館、ホールや施設を充実させ、子供や外国人、シニアを含む多世代がつながるよう、伸び伸びとした生き方を求め、希望を持てる教育をする。
- ▶ 阪神南北地域合わせて摂津の国と言われた経緯もあり、ひとくくりで考えて文化や歴史を知っていただくことで、まちを好きになるのではないかな。
- ▶ 南海トラフ等、防災についてもっと考えてもいいのではないかな。
- ▶ 阪神大震災を経験しているので、「公助」、「自助」とよく言われる。「共助」の一部かもしれないが「近助」というのがあってもいい。

- ▶ 阪神地域は大阪に隣接しているが、東京や名古屋に隣接する地域とどう違うかという強みを出すと、良さが出るとはならないかな。
- ▶ 都会の方に農業体験をしていただく機会を作り、興味を持ってもらうことを進めていきたい。
- ▶ グローバルな視点から新しい時代に対応した阪神らしさとは何か、「共に」「創る」を目指すためにどうやって創造力を育てるのか、近隣とのつながり方をどう活かしていくかを考えていく必要がある。

新地域ビジョン実現に 向けた活動

- ▶ 体力を整えていくつになっても働く。働くというのは労働ではなく、働くという文字を分解すると「人」は「動く」である。働く人はみずから動ける体に、それが健康であれば認知症の防止であり、きちんと対話ができるようにしたい。
- ▶ 生涯学習で、大学を開放して自由に使えたらいい。少子化で1人が重要な役割を持つため大切に育てていかないといけない。教育は非常に大事である。
- ▶ できる時にできる人ができることを楽しみながら活動する。皆に合わせないといけないという事をやめて、自由な発想で個人が楽しくできるようなシステムづくりができればいい。
- ▶ 学校、行政、自治会等が集まって話ができる場があればいい。つなげる場が、防犯、防災につながる。
- ▶ 地域のボランティア活動に積極的に参加して顔見知りになる。子どもに昔の遊びや暮らしや祭りを伝え、一緒に植樹やエコツアーを行い、外国人や高齢者等含めた多世代が参加できるイベントを実施する。

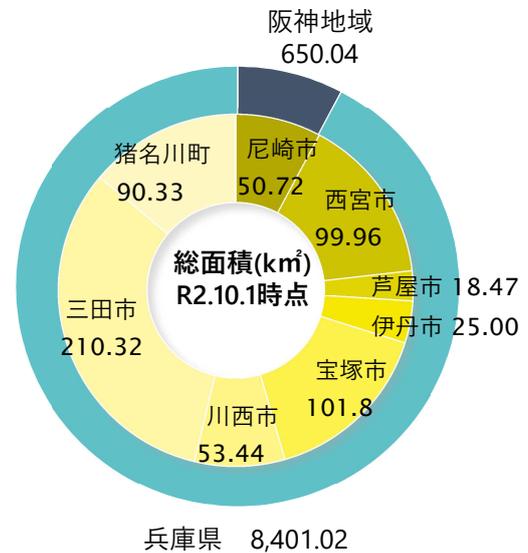
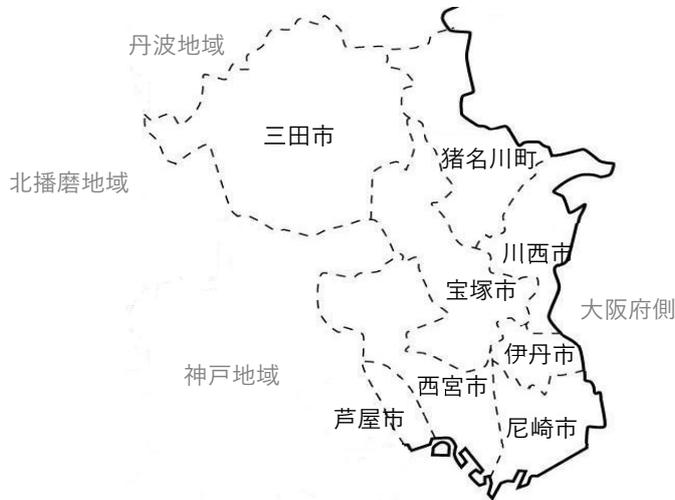
3 データでみる阪神地域

- 1 地勢
- 2 人口
 - (1) 人口・昼間人口比率・出生数・死亡数・合計特殊出生率
 - (2) 人口の推移
 - (3) 将来人口
 - (4) 年齢（3区分）別の将来人口割合の推移
 - (5) 世帯数と1世帯当たりの人数の推移
- 3 特定非営利活動法人（NPO）認証数の推移
- 4 国際交流
 - (1) 在留外国人数の推移
- 5 産業
 - (1) 市町内総生産（名目）の推移
 - (2) 就業者数（総数）の推移
 - (3) 製造業事業所数（4人以上の事業所）の推移
 - (4) 商業事業所数の推移
 - (5) 観光客総数の推移
 - (6) 農林業の状況
- 6 交通体系
 - (1) 道路
 - (2) 路線バス
 - (3) 鉄道
 - (4) 空港
 - (5) 港湾
- 7 生活環境
 - (1) 住宅
 - (2) ゴミ処理、生活排水
 - (3) 都市公園
 - (4) 情報
 - (5) 待機児童
- 8 健康医療
- 9 教育
- 10 事故・防災
- 11 住みたいまちランキング（関西・総合）の推移
- 12 本当に住みやすい街大賞
- 13 地域の特色、主な施設
- 14 バル・音楽イベント・アートイベントなど
- 15 地域の特色ある産業、伝統工芸など

※  シナリオ  は、「第4章 地域ビジョンの実現に向けたシナリオ」の関連資料を表わす。

1 地勢

- ・阪神地域は、兵庫県の南東部に位置する。
- ・7市1町からなり、東は大阪府、西は神戸市、北播磨、北は丹波、南は大阪湾に面している。
- ・北部に六甲・北摂連山、南部に大阪湾沿岸部を有し、武庫川水系・猪名川水系の本支流が流れ、北西部に三田盆地、南部には大阪平野が広がっている。
- ・明治以降の鉄道網の発達により、南部には都市型住宅地、北部には郊外型ニュータウンが開発され、多様で良好な住宅地を形成している。



出典：兵庫県市区町別主要 統計指標令和3年版

2 人口

(1) 人口・昼間人口比率・出生数・死亡数・合計特殊出生率

シナリオ 1 8

	人口 (R2.10.1)	人口密度 (R2.10.1)	昼間人口 比率(H27)	千人当たり 出生数 (R1)	千人当たり 死亡数 (R1)	合計特殊 出生率 (H27)
兵庫県	人 5,438,891	人/k m ² 647.4	% 95.7	人 6.87	人 10.47	1.48
阪神地域	1,747,559	2,688.4	89.0	7.28	9.44	—
全県比率	32.1%	—	—	—	—	—
尼崎市	451,264	8,897.2	96.3	8.10	11.17	1.52
西宮市	487,308	4,875.0	90.0	7.60	8.23	1.49
芦屋市	94,209	5,100.6	83.1	6.09	9.15	1.34
伊丹市	198,619	7,944.8	90.5	8.48	8.77	1.57
宝塚市	224,371	2,204.0	79.9	6.72	9.38	1.44
川西市	152,483	2,853.3	79.6	5.46	10.32	1.36
三田市	109,637	521.3	92.4	6.19	8.01	1.27
猪名川町	29,668	328.4	76.3	3.73	9.70	0.94

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版

(2) 人口の推移

	1990 (H2)年	1995 (H7)年	2000 (H12)年	2005 (H17)年	2010 (H22)年	2015 (H27)年	2020 (R2)年
兵庫県	千人 5,405	千人 5,402	千人 5,551	千人 5,591	千人 5,588	千人 5,535	千人 5,439
阪神地域	1,629	1,613	1,688	1,732	1,754	1,757	1,748
全県比率	30.1%	29.9%	30.4%	31.0%	31.4%	31.7%	32.1%
尼崎市	499	489	466	463	454	452	451
西宮市	427	390	438	465	483	488	487
芦屋市	87	75	84	91	93	95	94
伊丹市	186	188	192	192	196	197	199
宝塚市	202	203	213	220	226	225	224
川西市	141	145	154	158	156	156	153
三田市	65	96	112	113	114	113	110
猪名川町	22	27	29	30	32	31	30

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版、R2分はR2国勢調査速報値

(3) 将来人口

	2025 (R7)年	2030 (R12)年	2035 (R17)年	2040 (R22)年	2045 (R27)年	2050 (R32)年	2055 (R37)年	2060 (R37)年
兵庫県	千人 5,299	千人 5,118	千人 4,911	千人 4,686	千人 4,458	千人 4,231	千人 3,992	千人 3,741
阪神地域	1,726	1,687	1,638	1,584	1,527	1,468	1,401	1,326
全県比率	32.6%	33.0%	33.4%	33.8%	34.2%	34.7%	35.1%	35.4%
尼崎市	444	436	426	416	406	395	382	367
西宮市	482	471	457	441	423	405	384	361
芦屋市	93	91	89	85	82	78	74	70
伊丹市	201	200	198	195	192	189	185	179
宝塚市	222	217	210	203	196	188	178	167
川西市	147	140	132	125	117	110	103	95
三田市	108	104	100	94	88	82	76	70
猪名川町	29	28	26	25	23	21	19	17

平成 27 年 10 月の国勢調査結果とこれに基づく国立社会保障・人口問題研究所の推計結果を参考に、兵庫県企画県民部ビジョン課が推計。千人未満の単位を四捨五入しているため、阪神地域合計に一致しない。

(4) 年齢（3 区分）別の将来人口割合の推移

	年少人口割合（0～14 歳）							
	2025 (R7)年	2030 (R12)年	2035 (R17)年	2040 (R22)年	2045 (R27)年	2050 (R32)年	2055 (R37)年	2060 (R42)年
阪神地域	% 11.2	% 10.6	% 10.3	% 10.2	% 10.1	% 10.0	% 9.8	% 9.7
尼崎市	10.2	9.9	9.7	9.7	9.7	9.5	9.4	9.2
西宮市	11.6	10.8	10.3	10.1	9.9	9.7	9.5	9.4
芦屋市	11.1	10.3	9.8	9.7	9.7	9.6	9.5	9.3
伊丹市	12.6	12.2	12.0	12.0	12.1	12.0	11.8	11.7
宝塚市	10.9	10.2	9.8	9.8	9.8	9.7	9.5	9.3
川西市	11.1	10.5	10.1	10.1	10.1	9.9	9.8	9.7
三田市	12.3	11.5	11.1	10.9	10.7	10.4	10.2	10.2
猪名川町	11.1	10.2	9.4	9.0	8.8	8.5	8.3	8.0
	生産年齢人口割合（15～64 歳）							
阪神地域	58.5	57.5	55.2	51.9	50.3	49.8	49.8	51.0
尼崎市	60.1	59.8	58.3	55.5	54.1	53.7	54.1	54.8
西宮市	60.4	58.7	55.9	52.2	50.2	49.4	49.6	50.4
芦屋市	56.7	54.9	52.1	48.3	46.6	46.2	47.4	49.0
伊丹市	60.4	59.6	57.8	55.0	53.8	53.6	54.2	54.7
宝塚市	56.3	54.5	51.6	47.7	46.0	45.6	46.4	47.4
川西市	55.3	54.3	51.8	47.8	45.8	44.7	44.8	45.7
三田市	56.4	52.7	50.6	48.7	48.0	47.4	47.0	46.5
猪名川町	52.9	50.2	46.7	42.4	39.3	38.3	38.1	38.7
	老年人口割合（65 歳以上） ※（）内は 75 歳以上							
阪神地域	30.0 (18.4)	31.9 (19.7)	34.5 (20.0)	37.9 (21.0)	39.5 (23.0)	40.2 (26.2)	39.9 (26.2)	39.3 (27.1)
尼崎市	29.7 (18.3)	30.3 (18.6)	32.0 (18.0)	34.8 (18.3)	36.2 (19.9)	36.8 (22.7)	36.5 (23.7)	36.0 (23.4)
西宮市	28.0 (16.9)	30.5 (18.4)	33.8 (19.0)	37.8 (20.3)	39.9 (22.8)	40.9 (26.4)	40.8 (27.9)	40.2 (27.9)
芦屋市	32.2 (20.0)	34.7 (21.6)	38.1 (22.4)	42.0 (23.7)	43.7 (26.3)	44.2 (29.9)	43.2 (31.1)	41.7 (30.5)
伊丹市	26.9 (17.0)	28.2 (17.8)	30.2 (17.5)	32.9 (18.1)	34.1 (19.6)	34.4 (22.1)	33.9 (23.1)	33.6 (22.6)
宝塚市	32.8 (20.7)	35.3 (22.4)	38.6 (23.1)	42.5 (24.4)	44.3 (27.0)	44.7 (30.7)	44.1 (32.0)	43.3 (31.4)
川西市	33.6 (22.2)	35.2 (23.2)	38.0 (22.9)	42.2 (23.6)	44.2 (26.4)	45.3 (30.7)	45.4 (32.3)	44.6 (32.4)
三田市	31.4 (16.0)	35.8 (19.9)	38.4 (23.1)	40.4 (25.9)	41.3 (27.1)	42.1 (28.1)	42.7 (28.4)	43.3 (28.9)
猪名川町	36.0 (21.2)	39.6 (25.6)	43.8 (28.3)	48.7 (30.6)	52.0 (33.9)	53.2 (38.4)	53.6 (41.5)	53.3 (42.0)

平成 27 年の国勢調査結果とこれに基づく国立社会保障・人口問題研究所の推計結果を参考に、兵庫県企画県民部ビジョン課が推計

シナリオ 10 11

(5) 世帯数と1世帯当たりの人数の推移

	2005 (H17) 年		2010 (H22) 年		2015(H27)年		2020(R2) 年	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
兵庫県	2,146,488	2.6	2,255,318	2.5	2,315,200	2.4	2,398,865	2.3
阪神地域	692,390	2.5	731,943	2.4	750,847	2.3	773,499	2.3
全県比率	32.3%	—	32.5%	—	32.4%	—	32.2%	—
尼崎市	198,653	2.3	209,343	2.2	210,433	2.2	221,152	2.1
西宮市	192,466	2.4	202,648	2.4	210,965	2.3	215,188	2.3
芦屋市	37,970	2.4	39,753	2.3	41,881	2.3	42,505	2.2
伊丹市	72,983	2.6	77,263	2.5	78,903	2.5	82,546	2.4
宝塚市	85,098	2.6	91,737	2.5	94,140	2.4	95,518	2.4
川西市	58,777	2.7	60,584	2.6	62,675	2.5	63,344	2.4
三田市	37,052	3.1	40,068	2.9	41,070	2.7	42,335	2.6
猪名川町	9,391	3.2	10,547	3.0	10,780	2.9	10,911	2.7

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。各年10月1日現在。R2分はR2国勢調査速報値

3 特定非営利活動法人(NPO)認証数の推移 シナリオ 10 11

	2010(H22)年度	2015(H27)年度	2020(R2)年度
兵庫県	1,612	2,151	2,206
阪神地域	459	590	596
全県比率	28.5%	27.4%	27.0%
尼崎市	88	112	115
西宮市	130	179	167
芦屋市	42	51	54
伊丹市	41	57	55
宝塚市	82	103	113
川西市	35	37	40
三田市	33	42	44
猪名川町	8	9	8

出典：兵庫県調べ。各年3月31日現在

4 国際交流

(1) 在留外国人数の推移

シナリオ 4

	2010 (H22) 年	2015(H27) 年	2020(R2) 年
兵庫県	99,767	98,625	114,806
阪神地域	29,152	27,441	30,238
全県比率	29.2%	27.8%	26.3%
尼崎市	11,885	11,025	12,056
西宮市	6,617	6,318	7,292
芦屋市	1,682	1,612	1,672
伊丹市	3,317	3,106	3,206
宝塚市	3,228	2,935	3,142
川西市	1,234	1,228	1,439
三田市	1,000	1,058	1,216
猪名川町	189	159	215

出典：兵庫県調べ。各年12月31日現在

5 産業

(1) 市町内総生産（名目）の推移

シナリオ 17

	2009 (H21) 年度総計	2014 (H26) 年度総計	2019 (R1)年度			
			総計	第1次産業	第2次産業	第3次産業
兵庫県	百万円 18,779,913	百万円 20,308,831	百万円 21,210,565	百万円 104,366	百万円 5,903,715	百万円 15,081,998
阪神地域	4,619,497	5,089,466	5,399,336	4,279	1,310,631	4,053,756
全県比率	24.6%	25.1%	25.5%	4.1%	22.2%	26.9%
尼崎市	1,569,142	1,739,195	1,910,038	219	688,470	1,210,499
西宮市	1,129,058	1,259,570	1,359,997	310	173,315	1,178,647
芦屋市	194,488	202,720	206,398	4	19,929	185,293
伊丹市	552,308	641,965	622,929	317	181,759	437,314
宝塚市	446,387	453,733	467,716	710	46,105	418,244
川西市	293,014	323,364	330,412	257	34,774	293,504
三田市	377,004	407,075	438,776	2,109	162,567	271,608
猪名川町	58,096	61,844	63,070	353	3,712	58,647

市町内総生産総計＝第1次産業＋第2次産業＋第3次産業＋輸入品に課される税・関税等

出典：令和元年度市町民経済計算

(2) 就業者数（総数）の推移

シナリオ 17

	2005 (H17) 年総数	2010 (H22) 年総数	2015 (H27) 年			
			総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
兵庫県	人 2,553,965	人 2,489,617	人 2,443,786	人 48,098	人 609,949	人 1,685,535
阪神地域	790,872	776,925	747,461	4,960	162,474	546,000
全県比率	31.0%	31.2%	30.6%	10.3%	26.6%	32.4%
尼崎市	213,452	204,244	192,674	599	48,807	131,965
西宮市	212,374	216,076	204,206	646	38,197	155,543
芦屋市	41,310	40,469	39,218	82	6,498	30,740
伊丹市	89,794	89,210	86,507	593	21,780	60,302
宝塚市	98,493	95,314	93,932	854	18,010	72,136
川西市	68,556	63,827	64,435	567	13,853	48,249
三田市	53,388	53,700	52,950	1,217	12,573	36,872
猪名川町	13,505	14,085	13,539	402	2,756	10,193

就業者数（総数）には分類不能の産業を含むため、第1～3次産業就業者数の合計とは一致しない。

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。各年10月1日現在

(3) 製造業事業所数（4人以上の事業所）の推移

	2008 (H20)年	2013 (H25)年	2018 (H30)年			
			事業所数	従業者数	製造品出荷額等 (H30)	1事業所当たりの 製造品出荷額等
兵庫県	所 11,147	所 9,017	所 7,798	人 361,956	万円 1,650,673,635	万円 211,679
阪神地域	1,968	1,629	1,428	74,874	323,384,810	226,460
全県比率	17.7	18.1%	18.3%	20.7%	19.6%	—
尼崎市	1,032	824	716	32,647	144,976,326	202,481
西宮市	235	193	172	9,177	29,122,112	169,315
芦屋市	17	14	13	229	319,532	24,579
伊丹市	343	314	265	15,861	66,456,955	250,781
宝塚市	90	67	59	3,846	8,205,585	139,078
川西市	119	98	90	2,405	7,745,736	86,064
三田市	113	103	99	10,231	65,753,086	664,173
猪名川町	19	16	14	478	805,478	57,534

1事業所当たりの製造品出荷額等は製造品出荷額等を事業所数で除した。

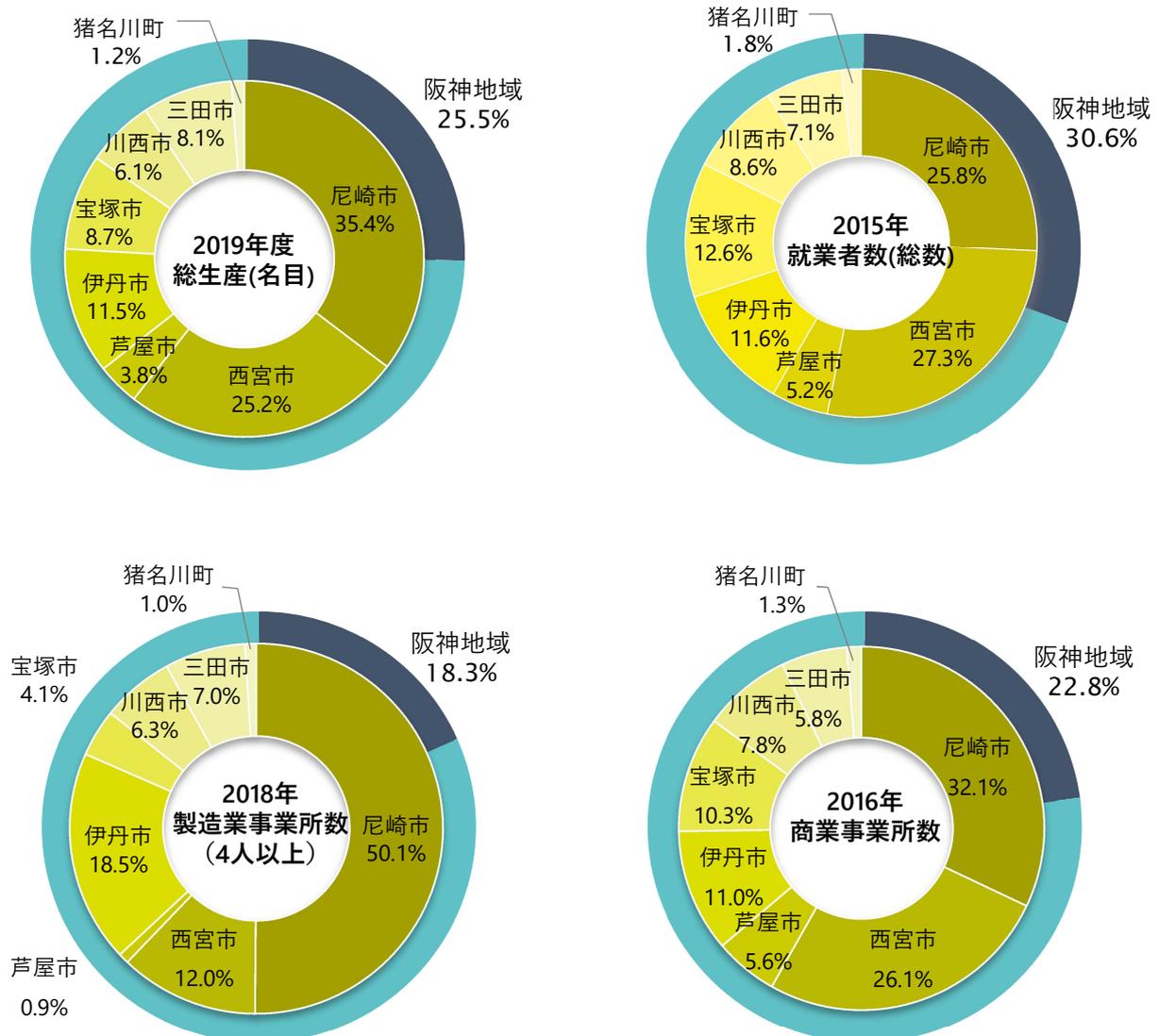
出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。H20及びH25年は12月31日現在。H30年は6月1日現在

(4) 商業事業所数の推移

	2007 (H19)年	2014 (H26)年	2016 (H28)年			
			事業所数	従業者数	年間販売額(H27)	1事業所当たりの 販売額
兵庫県	所 61,597	所 41,549	所 42,050	人 352,423	百万円 14,379,383	百万円 342.0
阪神地域	13,849	9,416	9,604	91,348	3,714,873	386.8
全県比率	22.5%	22.7%	22.8%	25.9%	25.8%	—
尼崎市	4,875	3,014	3,081	26,930	1,037,380	336.7
西宮市	3,483	2,457	2,509	26,426	1,524,877	607.8
芦屋市	723	507	541	3,819	111,490	206.1
伊丹市	1,532	1,064	1,055	11,299	515,690	488.8
宝塚市	1,376	978	983	8,510	183,112	186.3
川西市	1,071	759	750	6,999	152,859	203.8
三田市	670	525	559	5,877	156,947	280.8
猪名川町	119	112	126	1,488	32,518	258.1

1事業所当たりの販売額は年間販売額を事業所数で除した。

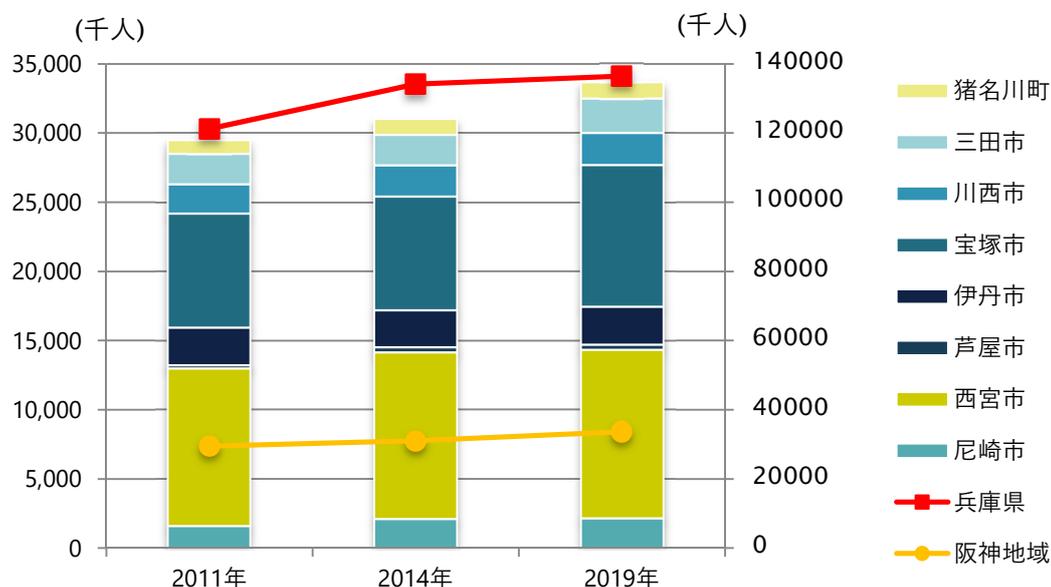
出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。H19及びH28年は6月1日現在。H26年は7月1日現在



(5) 観光客総数の推移

	2011 (H23) 年度総数	2014 (H28) 年度総数	2019 (H31)年度		
			総数	日帰り客割合	宿泊客割合
兵庫県	千人 121,265	千人 134,167	千人 136,508	% 91.3	% 8.7
阪神地域	29,492	31,015	33,662	96.9	3.1
全県比率	24.3%	23.1%	24.7%	—	—
尼崎市	1,587	2,096	2,161	79.8	20.2
西宮市	11,434	12,090	12,206	98.1	1.9
芦屋市	229	352	360	95.0	5.0
伊丹市	2,699	2,657	2,738	98.8	1.2
宝塚市	8,273	8,242	10,248	98.6	1.4
川西市	2,094	2,249	2,302	99.4	0.6
三田市	2,193	2,177	2,472	93.7	6.3
猪名川町	983	1,152	1,175	97.7	2.3

出典：兵庫県観光客動態調査報告書令和元年度版、28年度版、23年度版



【観光客総数の推移】

(6) 農林業の状況

シナリオ 5 16

	総経営耕地 総面積	経営耕地 面積 (田)	経営耕地 面積 (畑)	経営耕地 面積 (樹園地)	総農家数	保有山林 面積
兵庫県	ha 51,160	ha 47,729	ha 2,515	ha 916	戸 81,416	ha 103,622
阪神地域	2,745	2,422	204	119	4,414	4,034
全県比率	5.4%	5.1%	8.1%	13.0%	5.4%	3.9%
尼崎市	62	36	25	1	294	41
西宮市	102	73	26	2	359	2,361
芦屋市	—	—	—	—	4	70
伊丹市	80	48	24	7	377	—
宝塚市	385	324	30	32	598	428
川西市	116	75	15	26	390	176
三田市	1,680	1,588	66	26	1,758	531
猪名川町	320	278	18	25	634	427

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。H27.2.1現在

6 交通体系

大阪・神戸の間に位置し、広域的な幹線道路・鉄道網・空港・港湾が整備され、交通の要衝となっている。

(1) 道路

- ・東西方向に中国自動車道、名神高速道路、新名神高速道路、阪神高速道路3号神戸線・5号湾岸線・7号北神戸線、国道2号・43号・176号がある。
- ・南北方向に、舞鶴若狭自動車道、阪神高速11号池田線、国道171号・173号・477号、主要地方道川西篠山線・尼崎池田線・尼崎宝塚線等がある。

	国道	主要地方道	一般県道	市町道
	m	m	m	m
兵庫県	1,326,550	1,856,488	2,498,330	30,678,162
阪神地域	101,939	194,836	226,798	4,670,972
全県比率	7.7%	10.5%	9.1%	15.2%
尼崎市	12,427	20,371	25,111	822,900
西宮市	31,331	34,033	27,484	969,456
芦屋市	4,509	714	8,019	211,219
伊丹市	6,790	9,793	23,307	408,690
宝塚市	11,832	31,214	27,026	840,406
川西市	16,242	17,950	17,361	490,937
三田市	16,902	52,660	79,841	660,503
猪名川町	1,906	28,101	18,649	266,861

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版。H31.4.1現在

(2) 路線バス

- ・6者のバス事業者と3つのコミュニティバス（事業者に運行を委託）が営業を行っている。
事業者：阪急バス(株)、阪神バス(株)、尼崎交通事業振興(株)、神姫バス(株)、伊丹市交通局、大阪空港交通(株)
コミュニティバス：さくらやまなみバス（西宮市）、ランランバス（宝塚市）、ふれあいバス（猪名川町）

(3) 鉄道

- ・東西方向にJR山陽新幹線・東海道本線（神戸線）・東西線、阪神電気鉄道本線・なんば線、阪急電鉄神戸線・宝塚線が運行している。
- ・南北方向にJR宝塚線・福知山線、阪急電鉄今津線・伊丹線・甲陽線、阪神電気鉄道武庫川線、能勢電鉄妙見線・日生線、神戸電鉄三田線・公園都市線が運行している。

(4) 空港

- ・大阪国際空港は伊丹市、豊中市、池田市にまたがって位置し、「伊丹空港」とも称される。
- ・平成6年の関西国際空港開港後は、国内線の基幹空港としての役割を担っている。
- ・平成18年の神戸空港開港により、関西3空港時代を迎えた。

【大阪国際空港の航空輸送状況の推移】

	2010(H22)年次	2015(H27)年次	2019(R元)年次	2020(R2)年次
乗降客数	14,788,543人	14,541,936人	16,504,165人	7,672,386人
貨物	126,503t	131,374t	119,650t	83,486t
郵便	8,968t	9,318t	9,474t	8,474t
着陸数	64,056機	69,725機	69,222機	48,113機

出典：伊丹市統計書（令和2（2020）年度版）

(5) 港湾

- ・南部に尼崎西宮芦屋港がある。

【尼崎西宮芦屋港船舶入港状況の推移】

	2009(H21)年次	2014(H26)年次	2018(H30)年次	2019(R元)年次
隻数	5,512隻	5,956隻	5,393隻	5,040隻
総トン数	3,536,329t	3,805,379t	3,384,167t	3,192,747t

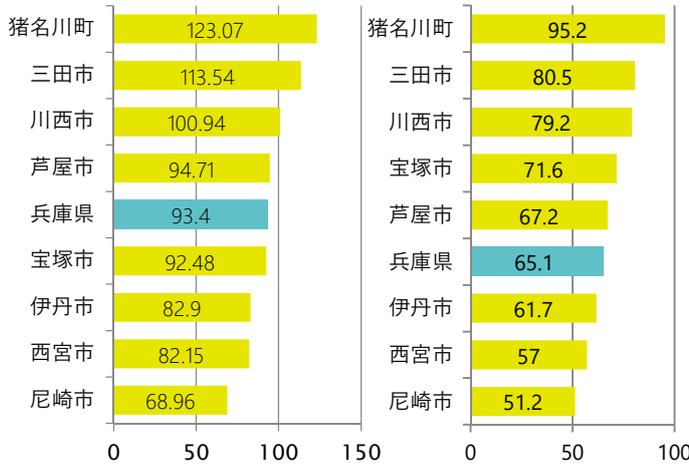
出典：兵庫県港湾統計年報（令和元年（2019年））

7 生活環境

(1) 住宅

	1住宅当たり 延べ面積 (H30.10.1 現在)	持ち家比率 (H27.10.1 現在)
兵庫県	m ² 93.40	% 65.1
尼崎市	68.96	51.2
西宮市	82.15	57.0
芦屋市	94.71	67.2
伊丹市	82.90	61.7
宝塚市	92.48	71.6
川西市	100.94	79.2
三田市	113.54	80.5
猪名川町	123.07	95.2

出典：平成 30 年住宅・土地統計調査
兵庫県市区町別主要統計指標令和 2 年版



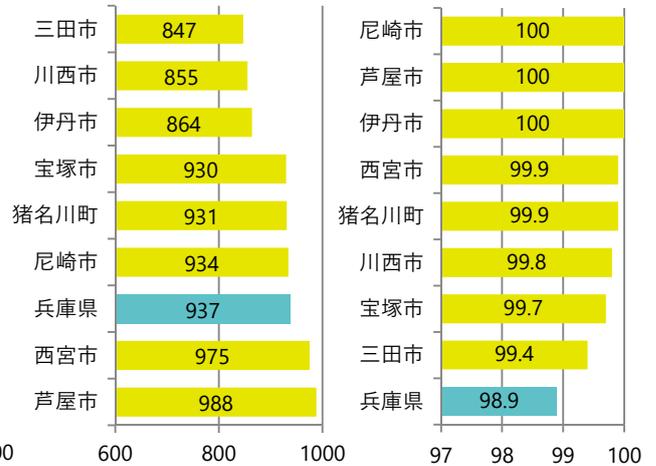
【1住宅当たり延べ面積(m²)】 【持ち家比率(%)】

シナリオ 10 11 12 17

(2) ゴミ処理、生活排水

	1人1日 ゴミ排出量 (H30 年度)	生活排水 処理率 (H30 年度末)
兵庫県	g/人日 937	% 98.9
尼崎市	934	100.0
西宮市	975	99.9
芦屋市	988	100.0
伊丹市	864	100.0
宝塚市	930	99.7
川西市	855	99.8
三田市	847	99.4
猪名川町	931	99.9

出典：平成 30 年度兵庫県の一般廃棄物処理
下水道普及率及び生活排水処理率
(令和元年度末)



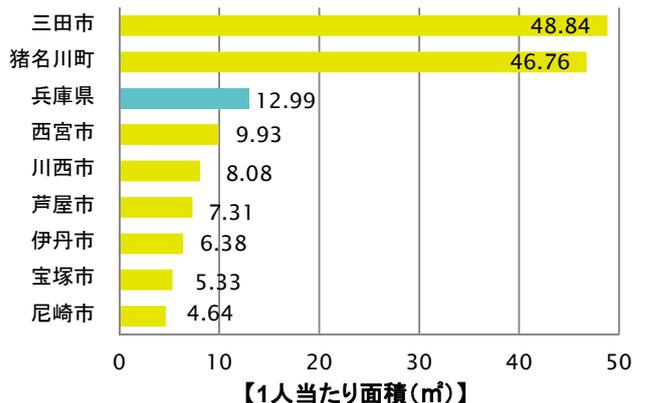
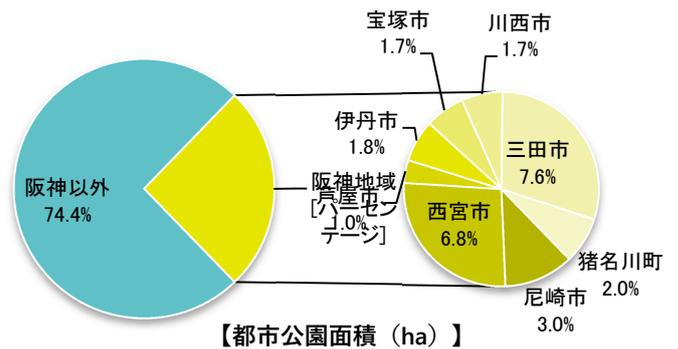
【1人1日ゴミ排出量(g/人日)】 【生活排水処理率(%)】

(3) 都市公園

	都市公園 面積	1人当たり 面積
兵庫県	ha 7,098.47	m ² 12.99
阪神地域	1,815.06	10.37
全県比率	25.6%	—
尼崎市	209.64	4.64
西宮市	484.11	9.93
芦屋市	68.92	7.31
伊丹市	126.50	6.38
宝塚市	119.92	5.33
川西市	124.05	8.08
三田市	541.24	48.84
猪名川町	140.68	46.76

1人当たり面積は総人口(R1.10.1)で除した。

出典：兵庫県市区町別主要統計指標
令和 3 年版。H31.3.31 現在



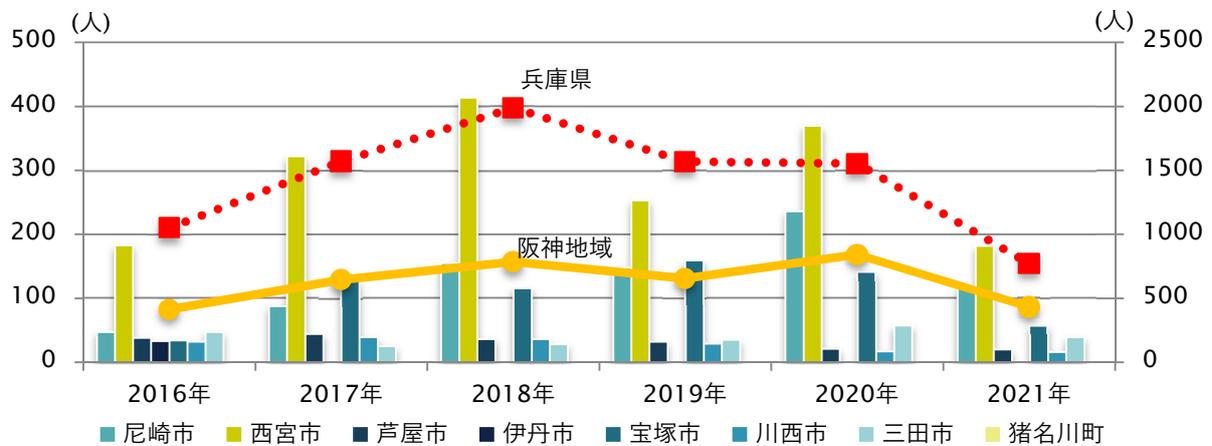
(4) 情報

ケーブルテレビ局	
ベイ・コミュニケーションズ	尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市と川西市の一部
ジェイコムウエスト（神戸芦屋局）	芦屋市
ジェイコムウエスト（宝塚川西局）	宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
コミュニティFM局	
FM a i a i	尼崎市
さくらFM	西宮市
ハッピーエフエムいたみ	伊丹市
ハミングFM宝塚	宝塚市
HONEY FM	三田市

(5) 待機児童

	2016 (H28) 年	2017 (H29) 年	2018 (H30) 年	2019 (R元) 年	2020 (R2) 年	2021 (R3) 年
兵庫県	人 1,050	人 1,572	人 1,988	人 1,569	人 1,528	人 769
阪神地域	414	646	784	656	817	433
全県比率	39.4%	41.1%	39.4%	41.8%	53.5%	56.3%
尼崎市	47	87	155	148	236	118
西宮市	183	323	413	253	345	182
芦屋市	38	44	36	32	21	20
伊丹市	33	0	0	0	0	0
宝塚市	34	128	116	159	141	58
川西市	32	39	36	29	17	16
三田市	47	25	28	35	57	39
猪名川町	0	0	0	0	0	0

出典：令和3年4月1日現在の県内の保育所等の定員・申込者の状況等。各年4月1日現在



【待機児童】

シナリオ 13

8 健康医療

	病院数	人口10万対 病院数	人口10万対 病床数	一般診療所数	人口10万対 一般診療所数
兵庫県	所 348	所 6.4	床 1,178.9	所 5,125	所 93.8
阪神地域	89	5.1	1,041.2	1,787	102.0
全県比率	25.6%	—	—	34.9%	—
尼崎市	24	5.3	916.6	490	108.5
西宮市	25	5.1	1,066.1	531	108.9
芦屋市	3	3.2	374.2	141	149.5
伊丹市	10	5.0	956.7	180	90.7
宝塚市	7	3.1	616.0	216	96.0
川西市	8	5.2	1,314.5	125	81.4
三田市	10	9.0	2,647.5	81	73.1
猪名川町	2	6.6	1,027.1	23	76.4

出典：令和元年医療施設調査。R1.10.1 現在

9 教育

シナリオ 2

	幼稚園		幼保連携型 認定こども園		小学校		中学校	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
兵庫県	校 270	校 189	校 89	校 440	校 736	校 11	校 336	校 43
阪神地域	71	100	8	63	173	6	78	14
全県比率	26.3%	52.9%	9.0%	14.3%	23.5%	54.5%	23.2%	32.6%
尼崎市	9	21	—	12	41	1	18	2
西宮市	21	38	—	33	40	2	19	7
芦屋市	5	4	2	2	8	—	3	2
伊丹市	8	8	3	3	17	—	8	—
宝塚市	10	14	—	—	24	3	12	2
川西市	5	6	3	8	17	—	7	—
三田市	10	9	—	3	20	—	8	1
猪名川町	3	—	—	2	6	—	3	—

	高等学校 (全日制・定時制)		中等教育学校		特別支援学校		専修学校	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
兵庫県	校 153	校 52	校 2	校 —	校 47	校 —	校 9	校 89
阪神地域	39	15	1	—	13	—	1	17
全県比率	25.5%	28.8%	50.0%	—	27.7%	—	11.1%	19.1%
尼崎市	11	2	—	—	1	—	—	6
西宮市	9	7	—	—	3	—	—	4
芦屋市	2	2	1	—	1	—	—	2
伊丹市	5	—	—	—	3	—	—	2
宝塚市	4	2	—	—	1	—	1	—
川西市	3	—	—	—	1	—	—	—
三田市	4	2	—	—	3	—	—	2
猪名川町	1	—	—	—	—	—	—	1

	各種学校		大学		短期大学	
	国公立	私立	国公立	私立	国公立	私立
兵庫県	—	75	5	31	—	17
阪神地域	—	23	—	10	—	9
全県比率	—	30.7%	—	32.3%	—	52.9%
尼崎市	—	11	—	1	—	2
西宮市	—	7	—	5	—	3
芦屋市	—	1	—	1	—	1
伊丹市	—	2	—	—	—	1
宝塚市	—	2	—	3	—	—
川西市	—	—	—	—	—	1
三田市	—	—	—	—	—	1
猪名川町	—	—	—	—	—	—

※大学は、大学本部（事務局）の所在地により集計
出典：令和3年度学校基本調査結果（速報）R2.5.1 現在

1 0 事故・防災

	交通事故死傷者数 (R2)	刑法犯認知件数 (R 元)	火災発生件数 (H30)
兵庫県	人 20,599	件 34,246	件 1,755
阪神地域	5,357	11,195	383
全県比率	26.0%	32.7%	21.8%
尼崎市	1,493	4,355	107
西宮市	1,274	2,913	97
芦屋市	326	462	13
伊丹市	906	1,442	31
宝塚市	450	853	28
川西市	629	718	57
三田市	215	355	38
猪名川町	64	97	12

出典：兵庫県市区町別主要統計指標令和3年版
 兵庫県警察市区町別刑法犯認知状況（令和2年）
 令和元年版消防防災年報

1 1 住みたい街ランキング 2021（関西・総合）の推移

シナリオ 1

30位以内にランキングされた阪神間の駅名

2017	2018	2019	2020	2021
1位 西宮北口				
2位 梅田				
3位 なんば	3位 神戸三宮	3位 神戸三宮	3位 神戸三宮	3位 神戸三宮
4位 夙川	6位 夙川	5位 夙川	6位 夙川	6位 夙川
11位 宝塚	12位 宝塚	11位 宝塚	13位 宝塚	12位 宝塚
12位 芦屋川	17位 芦屋川	17位 芦屋川	17位 芦屋川	13位 芦屋川
29位 芦屋	20位 西宮	20位 西宮	19位 尼崎	30位 西宮
	25位 芦屋	21位 尼崎	20位 西宮	
		27位 芦屋	29位 芦屋	
			29位 塚口	

出典：リクルート suumo 調査

1 2 本当に住みやすい街大賞

シナリオ 1

1位 尼崎	6位 桂川（京都市）
2位 本町（大阪市）	7位 元町
3位 二条（京都市）	8位 香里園（寝屋川市）
4位 学園都市（神戸市）	9位 山田（吹田市）
5位 伊丹	10位 緑橋（大阪市）

出典：ARUHI presents 本当に住みやすい街大賞 2018 in 関西

1.3 地域の特色、主な施設

シナリオ 10 ~ 18

地域の特色を示すもの

市町	まちの顔	祭、行事	名産・特産品
尼崎市	◇尼崎城 ◇歴史博物館 ◇田能遺跡 ◇寺町 ◇近松の里 ◇武庫川髭の渡しコスモス	◇富松薪能 ◇尼崎薪能 ◇大近松祭 ◇尼崎市民まつり ◇武庫川髭の渡しコスモス ◇大覚寺身振り狂言	◇菰冠化粧樽（こもかむりけしよ うたる） ◇生醤油 ◇かまぼこ等のねり製品 ◇水アメ ◇湯たんぼ
西宮市	◇阪神甲子園球場 ◇廣田神社 ◇西宮神社 ◇夙川河川敷緑地 ◇甲山	◇十日えびす（1月） ◇厄除け大祭（1月） ◇選抜高等学校野球大会（3・4月） ◇全国高等学校野球選手権大会（8月） ◇西宮酒ぐらルネサンスと食フェア（10月）	◇清酒（灘の生一本） ◇名塩和紙 ◇和ろうそく ◇和洋菓子 ◇和樽
芦屋市	◇芦屋川畔 ◇南芦屋浜	◇さくらまつり（4月） ◇山まつり（5月） ◇サマーカーニバル（7月） ◇秋まつり（10月） ◇芦屋市民ギャラリー・ステージ（10月上旬～11月上旬）	◇ケーキ
伊丹市	◇昆陽池公園 ◇大阪国際空港（伊丹空港） ◇伊丹スカイパーク ◇荒牧バラ公園	◇伊丹市民オペラ（1月下旬） ◇鳴く虫と郷町（9月中旬） ◇宮前まつり（10月初旬） ◇花火大会（8月第4土曜日） ◇伊丹マダン（11月第2日曜日）	◇清酒（清酒発祥の地） ◇地ビール ◇南京桃 ◇こぼれ梅（酒菓子） ◇たみまるレモン（マイヤーレモン）
宝塚市	◇宝塚歌劇 ◇宝塚文化創造館 ◇手塚治虫記念館	◇宝塚植木まつり（4月、10月） ◇宝塚ベガ音楽コンクール（6月） ◇宝塚国際室内合唱コンクール（7月） ◇宝塚ハーフマラソン（12月）	◇植木（日本三大植木産地） ◇ダリア球根 ◇北撰栗（西谷の栗） ◇炭酸せんべい ◇たからづか西谷太ネギ
川西市	◇黒川地区の里山（一庫炭生産地、日本の里100選） ◇多田神社（清和源氏発祥の地） ◇川西能勢口駅周辺 ◇加茂遺跡	◇清和源氏まつり（4月） ◇猪名川花火大会（8月） ◇川西一庫ダム周遊マラソン大会（11月）	◇いちじく（朝採りの恵み） ◇早生桃 ◇北撰栗 ◇菊炭（一庫炭）
三田市	◇有馬富士 ◇千丈寺湖 ◇三田八景 ◇有馬富士公園 ◇兵庫県立人と自然の博物館 ◇花のじゅうたん	◇さんだ桜まつり（4月） ◇三田まつり（夏～秋） ◇さんだ秋の観光と味覚まつり（秋） ◇さんだ農業まつり（11月） ◇三田ビール検定（11月） ◇さんだまち博（11月頃） ◇三田国際マスターズマラソン（12月） ◇サンタ×三田プロジェクト（12月）	◇三田肉、三田牛 ◇三田米 ◇うどん ◇母子茶 ◇黒大豆枝豆
猪名川町	◇国史跡多田銀銅山遺跡 ◇大野アルプスランド ◇歴史街道 ◇道の駅いながわ	◇いながわ桜まつり（4月） ◇いながわまつり（11月） ◇彫刻の道マラソン大会（12月）	◇しいたけ ◇松茸 ◇猪肉 ◇そば

市町	美術館・博物館等	音楽ホール・劇場等	スポーツ施設等
尼崎市	◇歴史博物館 ◇田能資料館 ◇近松記念館 ◇尼崎信用金庫世界の貯金箱博物館 ◇尼信会館 ◇A-Lab	◇県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター） ◇尼崎市総合文化センター（アルカイックホール・アクト）	◇尼崎スポーツの森 ◇記念公園（総合体育館、野球場、陸上競技場） ◇地区体育館（中央、小田、大庄、立花、武庫、園田） ◇軟式野球場（橘公園、小田南公園、魚つり公園、猪名川公園、西向島公園） ◇テニスコート（記念公園、猪名川公園） ◇屋内プール（サンシビック尼崎、芦原公園、北雁替公園）

西宮市	<ul style="list-style-type: none"> ◇西宮市大谷記念美術館 ◇白鹿記念酒造博物館 ◇甲子園歴史館 ◇西宮市貝類館 ◇山口町郷土資料館 ◇名塩和紙学習館 ◇黒川古文化研究所 ◇(公財)堀江オルゴール博物館 ◇辰馬考古資料館 ◇市立郷土資料館 ◇関西学院大学博物館 ◇アガベ大鶴美術館 ◇笹倉鉄平ちいさな絵画館 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立芸術文化センター ◇西宮市民会館 (アミティ・ベikomホール) ◇フレンテホール ◇プレラホール ◇甲東ホール ◇山口ホール ◇西宮東高校ホール (なるお文化ホール) ◇勤労会館ホール ◇西宮能楽堂 ◇西宮神社会館 ◇白鷹緑水苑宮水ホール 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立総合体育館 ◇阪神甲子園球場 ◇体育館 (中央、中央分館、浜甲子園、流通東、今津、鳴尾、甲武、北夙川、塩瀬、勤労者) ◇陸上競技場 ◇多目的グラウンド (中央、浜甲子園、西宮浜、山口町船坂、能登運動場) ◇野球場 (中央分館、浜甲子園、流通東、鳴尾浜臨海、高座山、津門、甲子園浜) ◇テニスコート (中央、樋之池、塩瀬、鳴尾浜臨海、流通東、浜甲子園、西宮浜産業交流会館) ◇樋之池プール
芦屋市	<ul style="list-style-type: none"> ◇滴翠美術館 ◇エンバ中国近代美術館 ◇俵美術館 ◇市立美術博物館 ◇芦屋市谷崎潤一郎記念館 ◇虚子記念文学館 ◇富田碎花旧居 ◇ヨドコウ迎賓館 	<ul style="list-style-type: none"> ◇芦屋市民センター (ルナ・ホール) ◇ラポルテホール ◇アルカディア (グレースホール、マリーサロン) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立海洋体育館 (芦屋マリンセンター) ◇B & G海洋センター ◇総合公園 ◇中央公園野球場 ◇中央公園芝生広場 ◇体育館・青少年センター ◇川西運動場 ◇テニスコート (西浜、東浜、芦屋公園) ◇朝日ヶ丘公園水泳プール
伊丹市	<ul style="list-style-type: none"> ◇市立美術館 (市立伊丹ミュージアム (R4.4月開館予定)) ◇市立博物館 (〃) ◇柿衛文庫 (〃) ◇市立工芸センター (〃) ◇市立伊丹郷町館 (〃) ◇市立こども文化科学館 ◇伊丹市昆虫館 	<ul style="list-style-type: none"> ◇アイホール ◇伊丹アイフォニックホール ◇東リ いたみホール 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立西猪名公園 ◇伊丹スポーツセンター ◇運動広場 (猪名川第1~4、荒牧、古池、堀池、神津) ◇稲野公園運動施設 ◇緑ヶ丘プール ◇野球場 ◇テニスコート (山田、猪名川) ◇トリムランニングコース (昆陽池、瑞ヶ池) ◇相撲場 ◇フィットネスラスタ ◇緑ヶ丘体育館・武道館 ◇ローラースケート場 ◇修武館
宝塚市	<ul style="list-style-type: none"> ◇鉄斎美術館 ◇市立手塚治虫記念館 ◇市立小浜宿資料館 ◇市立歴史民俗資料館 ◇旧和田家住宅、旧東家住宅 ◇すみれミュージアム ◇市立文化芸術センター 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ソリオホール ◇ベガ・ホール ◇アピアホール ◇宝塚文化創造館 (宝塚音楽学校旧校舎) ◇宝塚大劇場 ◇宝塚パウホール 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市立スポーツセンター ◇末広体育館 ◇末広スタジオ ◇高司グラウンド ◇売布北グラウンド ◇花屋敷グラウンド
川西市	<ul style="list-style-type: none"> ◇川西市文化財資料館 ◇川西市郷土館 ◇川西市歴史民俗資料館 ◇市立ギャラリーかわにし ◇大阪青山歴史文学博物館 ◇宮川石器館 	<ul style="list-style-type: none"> ◇キセラホール ◇川西市みつなかホール ◇アステホール 	<ul style="list-style-type: none"> ◇総合体育館 ◇弓道場 ◇市民温水プール ◇市民体育館 ◇市民運動場 ◇東久代運動公園 ◇県立西猪名公園
三田市	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立人と自然の博物館 ◇三田市ガラス工芸館 ◇三田市三輪明神窯史跡園 ◇三田市旧九鬼家住宅資料館 ◇三田ふるさと学習館 ◇三田市有馬富士自然学習センター 	<ul style="list-style-type: none"> ◇三田市総合文化センター (郷の音ホール) ◇三田市まちづくり協働センター ◇三田市フラワータウン市民センター 	<ul style="list-style-type: none"> ◇三田市運動公園 (城山、駒ヶ谷運動、三田谷、中央、下青野、小野、学園東、テクノ公園) ◇三田市心道会館 ◇三田市ふれあいと創造の里内ふれあいプール ◇多目的グラウンド ◇勤労者体育センター
猪名川町	<ul style="list-style-type: none"> ◇静思館 ◇町立ふるさと館 ◇多田銀銅山悠久の館 ◇猪名川天文台 (アストロピア) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇猪名川町文化体育館 (イナホール) ◇日生中央カリヨンホール 	<ul style="list-style-type: none"> ◇県立奥猪名健康の郷 ◇猪名川町B & G海洋センター ◇猪名川町スポーツセンター ◇猪名川町文化体育館 (イナホール) ◇登り尾公園テニスコート ◇うぐいす池公園テニスコート

市町	モダニズム建築	神社・仏閣等歴史的建築	縁の文化・芸能人等
尼崎市	◇大庄公民館 ◇市開明庁舎 ◇武庫大橋	◇尼崎城跡 ◇廣濟寺（近松門左衛門の墓） ◇貴布禰神社 ◇尼崎えびす神社 ◇寺町（寺町11か寺） ◇富松神社 ◇桜井神社（旧尼崎城西三の丸） ◇治田寺	◇白髪一雄（画家） ◇尼子惣兵衛（漫画家） ◇小林可夢偉（レーシングドライバー） ◇浜田雅功・松本人志（漫才師） ◇堂安律（サッカー選手）
西宮市	◇神戸女学院 ◇関西学院大学 ◇武庫川学院中高等部（鳴尾競馬場正面スタンド） ◇甲子園会館 ◇旧山本家住宅 ◇松山大学温山記念館 ◇カトリック夙川教会 ◇旧辰馬喜十郎住宅	◇西宮神社 ◇広田神社 ◇神呪寺 ◇門戸厄神（東光寺） ◇今津灯台 ◇西宮砲台	◇サトウハチロー（作詞家） ◇佐藤愛子（小説家） ◇井上靖（小説家） ◇遠藤周作（小説家） ◇小松左京（小説家） ◇村上春樹（小説家） ◇藤本義一（小説家） ◇小川洋子（小説家） ◇谷川流（小説家） ◇笑福亭鶴瓶（落語家）
芦屋市	◇ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅） ◇滴翠美術館（旧山口家住宅） ◇芦屋モノリス（旧芦屋郵便局電話事務室） ◇芦屋仏教会館 ◇市立図書館打出分室（旧松山家住宅松濤館） ◇ルナ・ホール ◇芦屋警察署（旧庁舎正面玄関） ◇旧宮塚町住宅	◇芦屋神社 ◇岩園天神社 ◇打出天神社 ◇阿保天神社 ◇三条八幡神社 ◇津知日吉神社 ◇富田碎花旧居 ◇業平橋 ◇打出橋 ◇阿保天神社力石 ◇会下山遺跡 ◇徳川大坂城東六甲採石場	◇在原業平（歌人） ◇富田碎花（詩人、歌人） ◇谷崎潤一郎（小説家） ◇高浜虚子（俳人・小説家） ◇村上春樹（小説家） ◇小川洋子（小説家） ◇大森一樹（映画監督） ◇コシノヒロコ（デザイナー）
伊丹市	◇東リ（株）日本館事務所	◇有岡城跡 ◇昆陽寺 ◇猪名野神社 ◇慈眼寺（木造釈迦如来座像） ◇旧岡田家住宅・酒蔵 ◇旧石橋家住宅 ◇和泉式部の墓 ◇鴻池稲荷祠碑（清酒発祥の碑）	◇和泉式部（歌人） ◇上島鬼貫（俳人） ◇岡田柿衛（国文学者） ◇田辺聖子（小説家） ◇宮本輝（小説家） ◇宇多喜代子（俳人） ◇坪内稔典（俳人）
宝塚市	◇旧松本安弘邸 ◇小林聖心女子学院 ◇宝塚文化創造館（宝塚音楽学校旧校舎） ◇高碕記念館 ◇正司邸住宅	◇大本山中山寺 ◇清荒神清澄寺 ◇伊和志津神社 ◇松尾神社 ◇小浜皇大神社 ◇平林寺 ◇毫撰寺	◇手塚治虫（漫画家） ◇中畑艸人（画家） ◇キダ・タロー（作曲家） ◇中辻悦子（美術家・絵本作家） ◇有川ひろ（小説家） ◇細川貂々（漫画家） ◇前川裕美（音楽家）
川西市	◇旧平賀家住宅	◇多田神社 ◇満願寺 ◇小戸神社 ◇多太神社 ◇旧福田家住宅 ◇旧下堂家住宅 ◇旧平安家住宅 ◇平野鈇泉工場跡旧御料品製造所及び旧源泉地施設	◇青木大乘（日本画家） ◇平通武男（洋画家） ◇西野亮廣（絵本作家） ◇藤原功次郎（トロンボーン奏者）
三田市	◇三田学園中学本館 ◇三田学園創立二十五周年記念図書館	◇金心寺 ◇聖徳寺 ◇高売布神社 ◇住吉神社 ◇花山院 ◇欣勝寺 ◇旧九鬼家住宅 ◇三田焼・三輪明神窯跡群第1号窯跡 ◇心月院	◇川本幸民（蘭学者） ◇内田忠兵衛（陶工） ◇天岡均一（彫刻家） ◇三好達治（詩人） ◇上田桑鳩（書道家） ◇横山エンタツ（漫才師） ◇新宮晋（彫刻家） ◇白洲次郎（実業家）
猪名川町	◇静思館	◇東光寺 ◇景福寺 ◇戸隠神社 ◇金山彦神社	◇井原西鶴（浮世草子作家） ◇平賀源内（発明家・文芸家） ◇木喰明満上人（彫刻家） ◇木辺弘児（小説家）

	◇天乳寺 ◇天澤寺 ◇多田銀銅山遺跡 ◇仁部家住宅	◇篠田節子 (小説家) ◇野島レナ (サクソフォン奏者) ◇秋山賢太 (タレント)
--	------------------------------------	---

出典：阪神南県民センター・阪神北県民局調べ 市町要覧 (2020.3)

1.4 バル・音楽イベント・アートイベントなど

シナリオ 14 16 17

バルとは・・・

スペイン語で喫茶店・立ち飲み居酒屋・食堂など町の社交場をあらわす言葉。

日本では、北海道の「函館バル街」が発祥。現在、各地でバルが「まちおこしのイベントや商店の活性化」と行った形で行われるようになった。

本州では、2009年に伊丹市が初開催。伊丹市の「まちなかバル」を代表とし、ここ数年で様々な地域で行われるようになった。

分野	名称	内容
バル	塚口バル	阪急塚口駅周辺の食べ飲み歩きの祭典。2019年で第7回を数える。
	甲子園口バル&マルシェ 大人の夙川バル 西北バル 阪西ばる&マルシェ	2010年秋以降、西宮市内の各地域で飲食店等の事業者による実行委員会の主催によるバル&マルシェイベントを実施。
	芦屋バル	2019年で第10回を数える。
	西宮あっちこっちバル	2010年秋以降、西宮市内では鉄道駅周辺を中心とした各地域で、飲食店等の事業者による実行委員会の主催によるバルイベントを実施。2014年には市内一斉バルを開催。
	伊丹まちなかバル	年2回春秋実施。飲食店とまちの活性化を目指した食べ歩き・飲み歩きのイベント。2017年5月開催で16回を迎えた。
	宝塚バル	2011年から年1回開催。
	三田バル	三田の街と店舗の活性化を目的にした食べ歩き・飲み歩きのイベント。2021年で第11回目を数える。
音楽イベント	野外アートフェスティバル (西宮市)	アーティストと市民、学生、子どもたちが野外の開放的な空間でアートを身近に感じ、互いに交流し、文化芸術を体験することを目的とした市民参加型イベント。
	アシオト (芦屋市)	「芦屋バル」の日に同時に開催。芦屋を音楽でいっぱいにし、お客さんを迎えるイベント。
	ITAMI GREEN JAM (伊丹市)	2014 (平成26)年に始まり、現在では約2万人を動員する関西最大級の無料ローカル野外イベント。数々の有名アーティストによるライブから子どもたちがつくるキッズエリアまで、様々な表現を集めた民間団体のイベント。
	伊丹市民オペラ (伊丹市)	伊丹市内の音楽家が中心となり、昭和60年より地域に根ざした文化の創造を目的に市民と芸術家との協働により開催する。新人の発掘・育成及びオペラを通して地域の文化振興を実践することを目標としている。
	「鳴く虫と郷町」 (伊丹市)	江戸時代の庶民の秋の楽しみである虫聴きを現代風にアレンジしたイベント。伊丹市旧郷町界隈で毎月9月に実施。
	伊丹オトラク (伊丹市)	伊丹まちなかバルと同時開催。「まちあるき」と「ライブ」を合体。ミュージシャンとサポーターが参加店を「流し」のように演奏して渡り歩く。

音楽イベント	宝塚ベガ音楽コンクール（宝塚市）	有能な演奏家を発掘・育成し、音楽文化の発展、向上に寄与することを目的として、1989（平成元）年から実施。過去の入賞者には、現在の日本のクラシック音楽会を牽引する人材を輩出している実績がある。
	宝塚国際室内合唱コンクール（宝塚市）	合唱の原点といえる“少人数による室内合唱”の普及、また、音楽を通じた国際交流の推進に資する目的で、1984年から開催。
	宝塚音楽回廊（宝塚市）	六甲山系の山並みと武庫川に囲まれ、緑豊かな芝生が広がる末広中央公園を会場に、毎年秋頃開催。阪神淡路大震災から10年を機に、まちを盛り上げるべく市民の力で立ち上げられたあと、市内の各駅を中心に、飲食店や広場などで、様々なジャンルの生演奏を行う。2012年に入場料をなくし、末広中央公園を中心に音楽だけでなく、こだわりの食材でつくるフードや天然素材を使ったワークショップ、アクティビティも充実させた結果、来場者数1万人を超える野外フェスに成長。
	川西音楽祭（川西市）	川西市内や近隣地域で音楽を中心に活動を行っているアーティストと市民の地域交流を促進し、市内の音楽活動の活性化につなげる音楽祭。
	ONE MUSIC CAMP（ワン・ミュージック・キャンプ）（三田市）	三田市波豆川の「三田アスレチック」で開かれるキャンプ型の野外音楽フェスティバル。大自然の中でリラックスしたキャンプ、ファミリーや友達同士で楽しめるプールにバーベキュー、フォトジェニックな会場デコレーションなどで、来場者を楽しませる。アウトドアが苦手な人のために、グランピングやホテル泊、古民家貸し切り等の多彩な滞在スタイルが選べるのも魅力。
アートイベント	富松薪能（尼崎市）	日本の伝統芸能である能楽の普及のために、昭和55年から富松神社境内において毎年行われている。
	尼崎新能（尼崎市）	日本の伝統芸能である能楽の普及のために、昭和55年から大物川緑地公園屋外能舞台において毎年行われている。大物川はかつて大物浦と呼ばれた入り江で、源頼朝に追われた源義経が静御前に別れをつけて船出した場所とされている。これをえがいた能楽「船弁慶」にちなんだ行事として、親しまれている。
	大近松祭（尼崎市）	近松門左衛門ゆかりの広濟寺で「近松門左衛門」の法要と文楽、小学生による浄瑠璃の上演などを行う。
	Kawanishi Art Project -Live-（川西市）	まちなかの屋外空間を活用して、アーティストや地域のお子さんの表現の場となるライブイベントや、親子で参加できるワークショップ、マーケットなどを開催。
	のせでんアートライン（川西市・猪名川町）	のせでん沿線各所や里山風景が残る自然豊かな「妙見の森」一体の地域において、自然・歴史・文化と調和する「物」「音」「光」などによるアートを点在させ、ハイキングや街歩き気分で沿線とアート作品を気軽に楽しめるイベント。能勢電鉄開業100周年を記念して2013年に第一回目を開催し、その後、地域の参加型ワークショップなどさまざまな形でアートを楽しむイベントとして続いている。
食	西宮酒ぐらルネサンスと食フェア（西宮市）	西宮の日本酒の伝統文化の発信と食産業の振興、観光振興を目的とするイベント。

出典：阪神南県民センター・阪神北県民局調べ

1.5 地域の特色ある産業、伝統工芸など

市 町	項 目	内 容
尼崎市	菰冠化粧樽（こもかむりけしょうたる）	生産量日本一。菰樽は、船での輸送中に酒樽の破損を防ぐ目的で樽に菰を巻き付けたのが始まりとされ、江戸積酒造地に近い農家の農閑四行として発展。「岸本吉二商店」「矢野三蔵商店」がその伝統を受けつぐ。
西宮市	宮水・酒蔵地帯	酒づくりに使用する水の湧出地帯、灘の生一本の主生産地。
伊丹市	清酒発祥の地	江戸初期にわが国発の清酒醸造に成功。酒造業で繁栄。
	旧岡田家住宅（店舗・酒蔵）	江戸前期（1674年）に建てられた現存するわが国最古の酒蔵（国の重要文化財）
宝塚市	宝塚ダリア園（佐曾利園芸組合）	1935年（昭和10年）、佐曾利園芸組合設立。1950年（昭和25年）には切り花から球根生産へと移行。生産数は現在でも全国生産の約4分の1を占める。
	宝塚歌劇	独自の表現スタイルと100年以上の歴史を誇る舞台芸術。
	園芸・植木	山本地区は接木法の発見により園芸先進地として発展。江戸時代には牡丹、杉、桧、明治時代には欄、バラ、大正時代に庭園樹もつくられるようになり、発展した。
川西市	いちじく	昭和初期、川西市内でいちじく（榊井ドーフィン種）の栽培が始まり、全国へ広まった。
	菊炭（一庫炭）	豊臣秀吉が池田の久安寺でお茶会を開いた際に好んで使われたという良質なお茶炭。現在は1軒のみ生産。
三田市	三田牛	三田肉流通振興協議会に指定された生産者により育てられ、厳しい検査に合格した牛。素となる牛は但馬牛に限定されている。

出典：阪神南県民センター・阪神北県民局調べ